

岐阜県立高等学校の活性化に関する検討まとめ

(岐阜県立高等学校ふるさと教育関連事業実施報告)

<令和4年度>

令和5年4月

岐阜県教育委員会

目 次

1	本検討まとめについて.....	1
2	令和4年度の実績結果.....	1
2-1	活性化に関する取組み.....	3
(1)	令和5年度県立高等学校入学者選抜の概要.....	3
(2)	令和5年度県立高等学校入学者選抜の改善.....	4
(3)	学校運営協議会の充実.....	4
(4)	スクール・ポリシーに基づく学校運営.....	5
(5)	県立高等学校の魅力発信.....	5
(6)	進学指導推進事業の報告.....	6
(7)	遠隔教育の実証研究.....	9
(8)	高等学校における演劇等ワークショップ事業の報告.....	10
(9)	高校生の意識に関する調査.....	10
2-2	ふるさと教育に関する取組み.....	12
(1)	地域とともに活性化する魅力ある高校.....	13
(2)	地域に密着した課題を探究する高校.....	20
(3)	STEAM教育等の教科横断的な視点及びグローバルな視点で課題を 探究する高校.....	25
(4)	地域の企業等と連携した専門高校等.....	32
(5)	ふるさと魅力体験事業.....	37
(6)	ふるさと教育の成果.....	37
2-3	ICT活用に関する取組み.....	39
(1)	教育DXやICT活用指導力向上に係る教員研修.....	39
(2)	ICT環境を活用した授業改善.....	39
(3)	校務のデジタル化による働き方改革の推進.....	40
(4)	ICTを活用した学校を越えたコミュニティの支援.....	40
3	令和5年度以降の実績内容と今後の方向性.....	42
(1)	ふるさと教育の推進.....	42
(2)	学校運営協議会の更なる活性化.....	43
(3)	進学指導推進事業の推進.....	43
(4)	高等学校における演劇等ワークショップ事業の継続.....	43
(5)	校務のデジタル化による働き方改革の推進.....	44
(6)	Wi-Fi環境の拡充.....	44
(7)	教育DXに関する教員研修の拡充.....	44

4	令和6年度の学科改編等	45
(1)	令和6年度学科改編等について	45
(2)	県外募集実施校	45
(3)	令和6年度県立高等学校入学者選抜	45
5	「県立高校活性化の基本方針(グランドデザイン)」策定後の取組みの成果と課題	46
6	資料編	47
参考資料1	中学校卒業予定者数の推移(全体/地区別)	48
参考資料2	県外募集に関するチラシ、広報	52
参考資料3	県立高等学校の特色の案内パンフレット	54
参考資料4	高校生の意識に関する調査	60

1 本検討まとめについて

県教育委員会では、平成28年3月に岐阜県立高等学校活性化計画策定委員会から提出された「審議まとめ」を受け、以降、県立高校の活性化の方策について具体的な検討を進め、年度ごとに取組結果等を「検討まとめ」として取りまとめてきた。

本報告は、岐阜県立高等学校の活性化に向けた令和4年度の実績、令和5年度以降の取組内容及び令和6年度学科改編等について示すとともに、平成31年3月に策定した岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）に掲げたふるさと教育関連事業等の令和4年度の実績状況について報告するものである。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大から3年目であり、各学校の様々な行事について、感染防止対策の徹底に努めつつ、感染リスクの少ない方法を模索しながら徐々に再開される1年となった。地元企業や大学等から外部講師を招いたり、生徒が実際にフィールドワークに出かけるなど、各高校の特性に応じて、ふるさと岐阜を題材とした探究的な学びが数多く実践された。

1人1台タブレット端末や教室内の機器など、これまでに整備が進められてきたICT環境の活用や、学習支援ソフトのMetaMoJiやmanaba等の活用も各高校に定着した。

また、すべての県立学校に導入した学校運営協議会において各校の特色化・魅力化等についての議論を一層深めるとともに、「スクール・ポリシー」に基づいた学校運営を行い、各校の活性化に向けた取組みの充実と実現を図った。

2 令和4年度の実績結果

「平成28年度の実績まとめ」において、県立高校の活性化の基本方針として、高校の特性に応じた活性化の基本的な考え方を定め、具体的な活性化策を例示したものをグランドデザインとした。このグランドデザインにもとづき、例えば、個別のより高度な学習ニーズへの対応、大学合格実績の向上、大学進学から就職までを含めた多様な進路希望への対応、地域産業を担う人材育成、更には多様な学習スタイルへの対応等、高校の特性に応じた活性化策を検討し、毎年度、具体的な取組みとして実行してきた。令和4年度の実績結果は3頁以降のとおりである。

＜県立高校活性化の基本方針（グランドデザイン）＞

	特 性	活性化の基本的な考え方	具体的な活性化策（例）
普通 科等	選抜性の 高い大学 への進学 が多い	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバルリーダーの育成 ○個別のより高度な学習ニーズへの対応 ○新大学入試制度や新学習指導要領を見据えた探究的な学びを積極的に展開 ○キャリア教育や進路支援体制を充実 ○地域から求められる人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高等教育機関等の教育力を積極的に活用したより高度な学習機会の提供 ◆少人数による主体的・対話的で深い学びの推進 ◆進学重点型の単位制へ改編 ◆授業時間外の補習体制の充実 ◆大学卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進
	いわゆる 中 堅 進 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習できる教育体制の構築 ○個別の進学希望へのきめ細かな対応 ○大学合格実績の向上 ○キャリア教育や進路支援体制を充実 ○地域から求められる人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆進学希望別（コース別）教育課程編成、コースや系列の見直し ◆進学重点型の単位制へ改編 ◆授業時間外の補習体制の充実 ◆大学卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進
	総合 学科	進路先が 多 様	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な進路希望にきめ細かく対応 ○多様な生徒（中途退学経験者、不登校経験者、特別な支援を必要とする生徒等）への対応 ○キャリア教育や進路支援体制を充実 ○地域から求められる人材を育成
専 門 学 科		学科によ って進路 状況に違 いがある	<ul style="list-style-type: none"> ○本県の地域産業を担う人材を育成 ○少子化に伴う学校の小規模化への対応 ○産業構造の変化等による新たなニーズへの対応
	定 時 制 通 信 制	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な生徒、多様な学習ニーズや学習スタイルへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆夜間定時制を多部制に改編（昼間部の新設） ◆全日制タイプの高校に改編

2-1 活性化に関する取組み

(1) 令和5年度県立高等学校入学者選抜の概要

(ア) 学科改編等（令和4年5月発表）

「平成28年度の検討まとめ」で示したグランドデザインにもとづいた学科改編等が昨年度までに実施できたことから、学科改編等については実施しなかった。

また、入学定員については、生徒数が減少する地域にある高校において、学校の活力を維持するため、平成30年度から1学級40人未満の定員など柔軟に設定してきた。令和5年度入学者選抜では、教職員の配置や授業展開などの学校経営の観点から慎重に検討した結果、22校で1学級40人未満の定員を設定した。

(イ) 県外からの生徒募集

平成30年度県立高等学校入学者選抜から、県外からも意欲の高い生徒が入学することで生徒同士がより切磋琢磨できるなどの教育効果を期待して、県外からの生徒募集（以下、県外募集という。）を実施している。令和3年度県立高等学校入学者選抜からは、募集分野を見直し、特色ある教育や部活動に加え、全国で活躍する部活動を実施する学校においても県外募集を行っている。

令和5年度県立高等学校入学者選抜においては、新たに大垣東高校を加え、引き続き「特色ある教育」「全国で活躍する部活動」の各分野で県外募集を行った。

また、県外募集の周知については、県外募集専用のホームページで実施校を紹介するなど広報活動に努めた。（参考資料2）

<令和5年度県立高等学校入学者選抜における県外募集実施校>

「特色ある教育」での募集		「全国で活躍する部活動」での募集	
学 校	分 野	学 校	分 野
加 納	音楽	羽 島 北	フェンシング
多 治 見 工 業	セラミック	岐 阜 総 合 学 園	ホッケー（男子）
恵 那 農 業	ふるさと教育（食、花と緑）	岐 阜 城 北	硬式野球（男子）
坂 下	福祉	岐 阜 商 業	硬式野球（男子）
益 田 清 風	ふるさと教育（地域文化伝承）	岐 南 工 業	自転車競技
高 山 工 業	建築インテリア	岐 阜 各 務 野	ホッケー（女子）
		大 垣 南	フェンシング
		大 垣 東	水球（男子）
		大 垣 商 業	体操
		海 津 明 誠	ヨット
		関 有 知	ライフル射撃
		加 茂	ボート
		飛 驒 神 岡	ロボット

＜県外募集による入学実績＞

入学年度	入学実績
平成30年度	1名 加納（音楽1）
平成31年度	4名 加納（音楽1）、東濃（ロボコン1）、恵那農業（園芸1）、坂下（福祉1）
令和2年度	5名 加納（音楽2）、海津明誠（ヨット1）、恵那農業（ふるさと教育1）、高山工業（建築インテリア1）
令和3年度	12名 岐阜城北（硬式野球3）、岐阜商業（硬式野球4）、岐阜各務野（ホッケー1）、大垣南（フェンシング1）、益田清風（ふるさと教育・地域文化伝承1）、高山工業（建築インテリア2）
令和4年度	19名 加納（音楽1）、岐阜総合（ホッケー3）、岐阜城北（硬式野球4）、岐阜商業（硬式野球2）、岐阜各務野（ホッケー2）、大垣南（フェンシング2）、大垣商業（体操1）、多治見工業（セラミック1）、恵那農業（ふるさと教育・食、花と緑1）、益田清風（ふるさと教育・地域文化伝承1）、高山工業（建築インテリア1）
令和5年度	11名 加納（音楽1）、岐阜総合（ホッケー1）、岐阜城北（硬式野球1）、岐阜商業（硬式野球1）、岐南工業（自転車競技1）、岐阜各務野（ホッケー2）、大垣東（水球2）、恵那農業（ふるさと教育・食、花と緑1）、益田清風（ふるさと教育・地域文化伝承1）

（2）令和5年度県立高等学校入学者選抜の改善

新型コロナウイルス感染症への対応として、第一次選抜の追検査の対象者に新型コロナウイルス感染症の罹患者又は濃厚接触者等を追加している。

新型コロナウイルス感染症罹患者の退院までの期間や、濃厚接触者等の健康観察期間を踏まえ、受検機会確保の観点から、追検査を第一次選抜の本検査の中10日で実施することとした。

また、令和4年12月以降の新型コロナウイルス感染症の感染急拡大を受け、さらなる受検機会を確保するため、第一次選抜の本検査及び追検査のいずれも受検できなかった場合の救済策として、「特別追検査」を設けるとともに、第二次選抜においても「特別措置」を設けることとした。

（3）学校運営協議会の充実

ふるさと教育関連事業で提案された地域の声を反映しながら、地域と一体となった高校づくりが更に進むよう、平成30年度に県立学校11校に学校運営協議会を設置し、以降、導入校を順次拡大してきた。令和3年1月26日中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」を踏まえ、地域住民等と学

校が連携・協働し、更に魅力ある高校づくりに取り組めるよう、令和3年度に、全県立学校83校に学校運営協議会を設置した。令和4年度は、学校運営の方針について委員から承認を得るとともに、感染症対策を徹底したうえで、ふるさと教育の取組みや各教科の授業等を実際に参観する機会を設けることで、各学校の特色化・魅力化等について具体的な意見を得ながら議論を深めることができた。

(4) スクール・ポリシーに基づく学校運営

高等学校において、特色・魅力ある教育を行うためには、各高等学校において育成を目指す資質・能力を明確化・具体化するとともに、学校全体の教育活動の組織的・計画的な改善につなげていく必要がある。

このため、本県では、「スクール・ポリシー」として以下に示す3つの方針を策定することとしている。

◆ グラデュエーション・ポリシー（GP） 『育てたい生徒像』

卒業までに生徒にどのような力を付けるのかを示したもの

◆ カリキュラム・ポリシー（CP） 『生徒をどう育てるか』

そのために、学校全体として教育活動をどのように展開するのかを示したもの

◆ アドミッション・ポリシー（AP） 『どんな生徒を待っているか』

入学希望者へのメッセージとして、どのような生徒の入学を待っているか、学校でどのような学びができるかを示したもの

「スクール・ポリシー」は、すべての県立高等学校のホームページにおいて公表している。令和4年度は、各高等学校は「スクール・ポリシー」を踏まえて「学校経営計画」を検討・作成し、それに基づいた学校運営を行った。

(5) 県立高等学校の魅力発信

(ア) 「キャリア・チャレンジDay」「高等学校フェア」の実施

各高等学校の魅力を、より分かりやすく積極的に発信するとともに、こうした情報を、中学校の進路指導に効果的にいかすことができるよう、全ての専門学科設置校で、従来の「高校見学会」や「中学生1日体験入学」等を拡充した体験講座「キャリア・チャレンジDay」を開催した。また、公立高等学校が地区別に一堂に会し、各校の取組みを紹介する「高等学校フェア」を開催した。どちらも今年度で2年目の取組みであるが、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を

行いつつ、初年度より規模を拡大して実施した。「高等学校フェア」は、可茂・多治見・恵那の各地区で実施した。

◇ キャリア・チャレンジDay

実施内容 中学生が専門高校で学ぶ魅力や職業に対する考え方など「高校での学びの先」を考えられる内容を盛り込んだ体験講座

【内容例】

- ・専門高校ならではの体験講座や体験実習
- ・専門高校で学ぶ魅力や職業に対する考え方を、高校生が自らの体験を交えて紹介
- ・学科の特色をいかした地域連携の学びやその成果の紹介、地域の現状と課題について中学生と一緒に考える体験

実施日 夏季休業中、土日祝日などに年間2～4回程度実施

実施会場 各専門高校28校（97学科）

参加人数 のべ9,321人

◇ 高等学校フェア

実施内容 中学生が将来への見通しをもって高校選択ができるよう、高校生が、探究活動等を通して学んだことや学習成果を伝える合同学校説明会

【内容例】

- ・高校生が、各学校の特色やふるさと教育、探究活動等における取組みの成果を発表し、学校・学科の学びの魅力や取組みを発信
- ・各高校が取り組んでいる「地域課題の解決」「SDGs視点によるまちづくり」等の特色ある取組みの紹介

実施日 可茂地区：1月28日（土）、多治見地区：11月26日（土）

恵那地区：2月12日（日）

参加人数 中学生・保護者のべ478人

（イ）「県立高等学校の特色の案内パンフレット」の配付

県立高等学校の特色やふるさと教育の概要、ICTの活用等を紹介したパンフレットを作成し、県内の公立中学校、特別支援学校に配付し、県立高等学校の魅力について周知した。

（6）進学指導推進事業の報告

平成29年度から普通科を設置している高校を中心に、多面的・総合的に評価・

判定することを基本方針とする大学入試制度に対応できる生徒の学力や教員の進学指導力の向上を図っている。

本事業では、進学指導重点校事業、進学指導連携事業及び県総合教育センターによる研修事業を、前年度からの改善を図りながら、継続して実施している。

(ア) 進学指導重点校事業

大学進学を主目的とした普通科がある高校の中から、14校を進学指導重点校に指定している。各校の令和4年度の取組みは以下のとおりである。

指定開始	学校名	特色ある主な取組み（◇：生徒対象 ◆：教員対象）
R 2～	多 治 見	◇：各種特別講座・進路講話の実施、自宅学習支援教材の活用 ◆：推薦書の書き方、小論文・志望理由書指導セミナーの実施
	中 津	◇：外部講師による特別補習の実施 ◆：志望理由書・プレゼン指導セミナーの実施
R 3～	多 治 見 北	◆：小論文・志望理由書指導セミナーの実施 ◆：進路指導体制の刷新、新課程に対応した指導方法の研究
	恵 那	◇：外部講師による特別講座の実施、大学説明会の実施 ◆：学校推薦型・総合型選抜に係る指導セミナーの実施
	斐 太	◇：外部講師による特別講座の実施
R 4～	長 良	◇：外部講師による小論文対策講座の実施 ◆：小論文・面接指導セミナーの実施
	岐 山	◇：外部講師による進路探究講座の実施 ◆：小論文指導セミナーの実施
	羽 島 北	◇：外部講師による志望理由書書き方セミナーの実施 ◆：志望理由書指導セミナーの実施、県外の先進校への視察
	各 務 原	◇：外部講師による進路講話の実施、推薦型選抜向け資料の整備 ◆：小論文指導セミナーの実施
	各 務 原 西	◇：外部講師による進路探究講座の実施、実力錬成補習の実施 ◆：小論文・面接指導セミナーの実施
	大 垣 東	◇：課題発見ワークショップの実施 ◆：県外の先進校への視察
	大 垣 西	◇：外部講師による進路探究講座の実施 ◆：小論文・面接・志望理由書指導セミナーの実施
	郡 上	◇：外部講師による特別講座の実施 ◇：教育実習生による交流会の実施
	関	◇：外部講師による特別講座・進路探究講座の実施

(イ) 進学指導連携事業

県全体の進学指導力向上を図り、生徒の進路実現に寄与することを目的した「大学進学指導連絡協議会」を中心に高校間で連携を図り、効果的な入試対策とモチベーション向上を目指す事業を推進した。事業内容は以下のとおりである。

◇ 令和4年度の主な事業内容

・外部講師による難関大学を目指す高校生のための入試研究会【生徒対象】

東京大学、京都大学、医学部医学科を志望する3年生（希望者）を対象に、学習対策（国・数・英、小論文）の講座を開講した。新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインにより実施したが、生徒・教員合わせて365名が参加した。

◇ 令和4年度のまとめ

外部講師による難関大学を目指す高校生のための入試研究会は、オンラインによる実施3年目となる。前年度9月の実施から、今年度は7月下旬から8月に前倒しし、生徒が自己の進路実現に向けて夏期休業を活用して学習することができるよう改善した。オンラインでの実施が定着した一方で、参加者の受講後の学習に対するモチベーションの向上や学習方法の改善につなげるため、県内の生徒が一堂に会する集合型研修を含め、実施方法や効果を検証して、今後更なる充実・発展を目指す。

(ウ) 県総合教育センターによる研修事業

県総合教育センター講座の専門研修として、大学入試問題の分析と大学入学者選抜改革による出題の傾向予想及びそれに対する効果的な学習・指導方法の在り方を研究・開発する講座を平成29年度から開講し、進学指導に係る教員の指導力向上を目指す事業を行っている。

◇ 令和4年度の主な事業内容

・大学入試問題研究講座 <国語・数学・英語>【教員対象】

外部講師による講義やワークショップを実施した。国語、数学、英語、それぞれの教科の視点で、多面的・総合的に評価・判定する大学入試の方向性や難関大学を中心とした入試分析、それに対応するために教員が身に付けておくべき力について学んだ。

◇ 令和4年度のまとめ

外部講師による大学入試問題の分析等を踏まえ、今後求められる学力を育む指導や授業の在り方について研究することで、授業改善の方向性を考える

ことができた。経験が少ない教員にとっては、自身の指導方法を見つめなおすきっかけとなり、勤務校での授業改善にいかすだけでなく、教科の専門性を高めることができた。また、小規模の高校に勤務している教員にとっては、最新の動向を知ることで、自身のもつ情報を更新し、自己研鑽の方法等を得る機会となった。受講者が各自の実践を持ち寄り交流することで、主体的に授業改善について考えを深めることができた。大学入試制度や受験者の動向が毎年度のように変化する現在において、大学入学者選抜の分析等は、受講者にとってだけでなく学校現場にとって大変価値がある。また、教員の年齢構成においてベテラン教員が多く、中堅教員が少ない本県においては、各学校で継承されてきた効果的な指導方法をどのように次の世代に伝承していくかも大きな課題である。本事業は、上記2点を実現するための有意義な取組みであった。

(エ) 大学入学共通テスト等の要因分析の実施

大学入試制度においては、大学入学共通テスト3年目となり、学力の3要素（「知識・技能の確実な習得」「思考力、判断力、表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」）をより要求する問題形式になった。また、学校推薦型選抜、総合型選抜等の一般選抜以外の入試形式も増えつつある。

県では、全ての県立高等学校にICT機器を導入し、ふるさと教育として学校や学科の特色に応じた探究的な学びを展開し、学力の3要素を身に付けるための取組みを進めている。

各学校においてこの取組みを評価し、授業内容や学校運営等の改善にいかしていくため、大学入試結果等を客観的に分析した。また、各学校の要因分析や大学入学共通テストの自己採点結果等を進路状況が似通った高校間で情報共有し、より組織的かつ戦略的な取組みとした。

(7) 遠隔教育の実証研究

少子化が進行する中、多様な学びのニーズに対応する方策の一つとして、小規模化が懸念される高校と、当該校を遠隔授業によりサポートする高校を指定し、遠隔授業による指導方法等の実証研究を行った。

これまでに、大型モニター、集音マイク、スピーカー等、遠隔授業を円滑に行

うために必要な機材を整備し、特定の単元の授業や、期間を限定した授業を遠隔で実施した。

令和4年度は、実施校間で講師を招いた授業をつなぎ、多様な学びのニーズへの対応やコミュニケーション能力や社会性の育成に対応できる手段とする方策について、その成果や課題を検証した。

実証研究として行われた授業では、美術館と各学校をつなぎ、所蔵する野外彫刻をオンライン鑑賞した。学校間で意見を交流しながら臨場感を伴う美術館のオンライン鑑賞型授業は、小規模校や少人数でも学び合う活動を行える合同授業型の実証研究となった。

(8) 高等学校における演劇等ワークショップ事業の報告

近年、コミュニケーションが苦手であることを原因として、学業や対人関係に行き詰まりを感じる生徒や、急速な社会のグローバル化に伴い日本語能力が十分でない外国人生徒が増加している。このような生徒に対し、演劇手法を用いた協働活動を通してコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図るため、令和4年度は13校において、プロの演出家や俳優等を講師として招聘し、演劇表現のワークショップを実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じながら各学校において、計画どおりすべてのワークショップを実施することができた。

また、7月に開催された県総合教育会議では、知事、県教育委員、演出家、俳優らが出席し、本事業の成果と今後の方向性について協議した。

平成30年度～：山県、羽島、揖斐、不破、東濃、恵那南 令和元年度～：郡上北、関有知、土岐紅陵、坂下、飛驒高山（山田キャンパス）、 飛驒神岡 令和2年度～：華陽フロンティア（定時制）、飛驒高山（定時制）

(9) 高校生の意識に関する調査

県立高等学校の生徒の日常生活における意識について調査・把握し、その結果を各施策に活用するため、「高校生の意識に関する調査（以下、本調査）」を、平成30年度から県立高等学校2年生全生徒を対象に実施している。（令和4年度の実答数は11,387人：回答率94.3%。調査結果全体は、参考資料4に掲載。）

項目	質問内容	肯定意見の割合%					H30との差
		H30	R1	R2	R3	R4	
主体的・対話的行動	今の高校に入学して満足している	80.9	82.2	83.8	84.8	85.9	+5.1
	日常の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う	69.6	71.9	76.2	77.5	77.9	+8.3
	日常の授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると思う	51.4	54.1	58.4	62.3	64.3	+12.9
	日常の授業では、生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	61.9	65.1	71.9	74.8	76.8	+14.9

※

項目	質問内容	肯定意見の割合%					H30との差
		H30	R1	R2	R3	R4	
地域意識	岐阜県や自分の住んでいる地域の産業や伝統について知っている	64.4	65.4	67.3	70.2	71.4	+7.1
	岐阜県や自分の住んでいる地域の魅力を伝えることができる	51.0	53.3	55.1	57.3	58.3	+7.3
	今住んでいる地域の行事に参加している	38.2	39.5	40.7	42.0	41.2	+3.0
	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある	53.9	58.2	59.5	59.1	60.3	+6.4
	地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがある	34.9	38.9	40.1	41.6	41.5	+6.6

項目	質問内容	「岐阜県」の割合%					H30との差
		H30	R1	R2	R3	R4	
将来	あなたは高校卒業後、どの地域の大学や短期大学、専門学校などに進学したいと考えていますか。あるいは、どの地域に就職したいと考えていますか	27.8	28.7	28.8	28.0	26.4	-1.5
	あなたは、40歳になったとき、どの地域で生活したいと考えていますか	32.8	33.4	32.4	30.9	29.4	-3.3

※「割合」と「H30との差」は、小数点第二位で四捨五入している

本調査では、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4件法により回答を得た。

「主体的・対話的行動」「地域意識」の各項目の肯定意見（「あてはまる」「ややあてはまる」）の割合は増加傾向にあり、第3次岐阜県教育ビジョンの開始年度である令和元年度以降、全県立高校にふるさと教育関連事業を指定し、ふるさと岐阜を題材とした探究的な学びに関する取組みが数多く展開された成果であると考えられる。

「将来」の各項目については、いずれも「岐阜県」を選択している高校生の割合は減少傾向にある。一方で「まだわからない」との回答が増えており、コロナ禍において、地元と連携した取組みの実施が困難な場合もあったことや不景気等で将来の見通しがもちづらくなっていることが影響していると考えられる。

2-2 ふるさと教育に関する取組み

本県では、平成31年3月に策定した岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）において、今後5年間の本県の教育政策の基本的な考え方として、「ふるさとに誇りをもち、『清流の国ぎふ』を担う子どもたちの育成」を掲げた。

子どもたちが将来、世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりして、「地域社会人」として活躍するためには、児童生徒がふるさとをよく知り、また、自らがふるさとで活躍していく将来像を描けるようにする必要がある。

このため、「ふるさと岐阜」への誇りと愛着をはぐくむふるさと教育の取組みを、小・中・高一貫して展開しているところである。

特に高校では、学習指導要領や中央教育審議会答申(令和3年1月26日)を踏まえ、ICTを日常的なツールとして活用していくとともに、地域と高校を強く結び付ける活動を通して、地域の魅力を知り、課題を発見・解決する探究的な学びを推進していく必要がある。そこで令和4年度も引き続き、ふるさと教育の枠組みの中で、ふるさとを教材とした探究的な学びを全ての県立高校で実施した。

<令和4年度ふるさと教育の概要>

令和4年度 高校における「ふるさと教育」の展開		
<p>これまでの取組(ふるさと教育) ～全ての高校で学校の特色に応じて展開～</p> <p>普通科高校</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の課題をグローバルな視野で捉えた探究的な学びを推進し、国際舞台や地域で活躍できる人材を育成 大学や地元自治体等、関連機関等との協働により、地域の魅力を教材に課題を発見・解決する学習を推進 <p>地域の小規模高校(グループ1・2の高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校と地域を強く結びつける活動を通じて、地域の魅力を教材に、課題を発見・解決する学習をさらに推進 地域や保護者の理解・協力を得ながら、学校の活性化に向けて、地域に貢献した学校運営をさらに促進 <p>専門高校</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業界等との連携を通して、地域の資源を活用した課題を発見させ、地域産業を担う専門職業人を育成 実践的・体験的に探究的な学びを推進し、学科横断的な取組を通じて、地域の課題解決に向けた取組を推進 	<p>R4年度 当初予算 主な関連事業</p> <p><普通科高校、地域の小規模高校(グループ1・2)></p> <p>【新】グローバル探究実践事業 1,100千円 文系・理系の枠に置けない学び(STEAM教育)を通じて、深く探究し、課題の発見・解決や社会的な議論を推進する資質・能力の育成を図る <取組例> 国内外の視察研修や模擬国連企業、地域の産業等と連携した探究活動 等</p> <p>【新】地域共創フラッグシップハイスクール事業 10,000千円 豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付け、地域創生などの様々な分野で活躍できるグローバル・リーダーの育成を図る <取組例> 国内外の大学、地域の産業界や海外機関等との連携、国際機関との連携による体験的取組 等</p> <p>【新】地域課題探究型学習の推進事業 3,400千円 産官学で連携し、ICTを活用するなどして地域課題を発見し、解決を目指す実践的な学びを通じて、社会を主体的に生き抜く人材育成を図る <取組例> 当該この課題による自治体等との連携した探究活動 等</p> <p>【新】地域連携による魅力ある高校づくり推進事業 12,300千円 学校の活性化に向け、地域と密接に連携した取組を通じて、各学校の特色に応じた探究的な学びを推進、地域創生の担い手となる人材育成を図る <取組例> 学校・地域が連携するためのアイデア企画・商品開発、地元企業と連携した企業研修 等</p> <p><専門高校></p> <p>【新】地域産業の担い手育成総合取組事業 12,400千円 実践的な体験等を通して、地域産業を担う専門職業人の育成や国際感覚を有した職業人としての高度人材等を推進 <取組例> 地域、産業界や海外機関等の活用による産官学連携の学習、企業における実践的な就業体験活動 等</p>	<p>すべての県立高校で「ふるさと教育」×「教科横断的な学び」×「ICT教育」を充実</p>
<p><ICTを効果的に活用した教育の充実></p> <p>【新】ICTを活用した教育力の向上 2,100千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末・学習支援ソフトやデジタル教材・オンライン等を効果的に組み合わせ、学校や学科の特色、生徒の特性に応じた教科学習・探究的な学びを推進 正解のない課題に対して地産と協働して課題解決を図る能力の育成を図るための「未来を創る新たな学び」を研究 <p>【新】DXに対応した教員研修の充実 1,924千円</p> <ul style="list-style-type: none"> DXによる教育の情報化や校務の効率化を図るとともに、ICT連携を基盤とした学びを充実するための、教員の知識やスキル向上のための教員研修を実施 	<p>DX人材の育成</p>	
<p><地域や保護者と一体となった学校運営の推進></p> <p>【新】学校運営協議会等設置費、事業費 4,100千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校・保護者・地域の連携を強化し、学校運営に主体的・協働的に関わることで、学校と地域の活性化を図る 	<p>地域ぐるみの学校運営</p>	

(1) 地域とともに活性化する魅力ある高校

【関連事業】地域連携による活力ある高校づくり推進事業

事業対象校

グループ1：不破、郡上北、八百津、東濃、瑞浪、土岐紅陵、恵那南、坂下、高山工業、飛騨神岡

グループ2：山県、揖斐、池田、海津明誠、関有知、恵那農業、中津商業、中津川工業、吉城

岐阜県立高等学校活性化計画策定委員会が平成28年3月に発表した「審議まとめ」では、令和元年度に1学年3学級以下が見込まれた高校をグループ1(10校)、令和2年度から令和10年度までに3学級以下が見込まれる高校をグループ2(9校)としている。グループ1、グループ2の19校では、地域連携による活力ある高校づくりを推進するため、地元市町や企業関係者などで構成された学校運営協議会から、各地域の特性等を高校活性化にいかす様々な提案を受け、地域と一体となった活力ある高校づくりを進めている。

令和4年度の各校の主な取組みは以下のとおりである。

<グループ1>

不破高校 【普通科（単位制）】
主な取組み
○ 地域の職業人による講話の実施 南宮大社の宮司や、関ヶ原町で活躍している野球グローブの職人を招き、地域で働き、生活することの意義や魅力についてお話を伺い、職業観を育成した。
○ 学校周辺の生態系の調査と調査結果を地域へ発信 赤外線センサーカメラを学校周辺に設置し、学校周辺にすむニホンジカの生態について詳しく調査をした。モリアオガエルの産卵数調査も行い、その結果を発表した。
成果と課題
・歴史がある南宮大社も伝統を重んじながらも、工夫をした様々な取組みを通して、地域や参拝者に働きかけをしていることを理解することができた。 ・生態調査では、1年間の成果を、大学主催の高校生サイエンス大賞にて発表し、優秀賞を得た。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
・講師による講話を単発で終わらせず、継続的な学びにつながるように工夫してほしい。 ・生態調査では、大学のみでなく、地域での成果発表会があるとよい。

郡上北高校 【普通科（単位制）：連携型中高一貫教育校】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業との連携により、地元食材を使った3次産業学習の実施 地元のハム製造企業と協働して、地元のハムを素材としたメニューを企画・開発し、イベント広報のポスターを作成した。実際に店頭に立って販売するなど体験的に学習した。 ○ 大学との連携により郡上市観光PR動画の作成 大学教授の指導のもと、デジタルアーカイブの手法を学び、アーカイブされたデータを使用して郡上市観光PR動画を作成した。今後、作成した動画を地元の道の駅で公開する。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習を通じ地域の良さや魅力を再確認し、販売により観光学への興味を深めた。 ・客観的データ分析の重要性やターゲット層にあった情報発信の重要性を学ぶことができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・観光の町郡上で地元企業と協働し、地元食材を使って実践的に学んでいる。観光の現状を教科書からではなく、実際に地域に入り込んで体験的に学んだことが素晴らしい。 ・大学と連携して授業を行っており、注目すべき内容である。観光PR動画作成を通じて、生徒がデータ取扱い上の注意点ばかりでなく、地域のPRポイントも学ぶことができています。

八百津高校 【普通科（単位制）：連携型中高一貫教育校】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ デュアルシステム（企業実習）の実施 年間30回の「企業実習（6単位）」、週2回の「企業実習基礎（2単位）」により、実習の事前・事後指導を継続的に実施した。成果発表会を開催し、その様子を連携中学校に配信した。 ○ 「郷土の歴史と地理」に係る探究学習の実施 学校設定科目「郷土の歴史と地理」の授業で、タブレットや書籍を用いてふるさと八百津について各々がテーマを設定し探究学習を実施した。八百津町の新名所である新旅足橋のバンジージャンプ場と、町の経済と大きく関わってきた丸山ダムの内見の見学を実施した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・企業実習により、自分に自信がもてるようになり、将来について真剣に考える生徒が増えた。 ・何らかの事情で企業の実習受入が年度途中で困難になった際の対応が課題である。 ・新規に「郷土の歴史と地理」を実施したことで、より深みのある探究学習ができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・デュアルシステムは1日だけの職場体験とは違い、年間を通じて職場を経験することで自分への自信へとつながっている。このような経験ができる学校は素晴らしい。 ・小学校から高校までを通して地域を学び活動することで地域への愛着が生まれ、地元で活躍する人材が育つ。本校は「郷土の歴史と地理」の探究学習など地域のためによく取り組んでいる。

東濃高校 【普通科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域づくり類型における「地域コミュニティ」「地域政策」の体験・協働学習の実施 「地域づくり類型」の学校設定科目「地域コミュニティ」「地域政策」において、御嵩町を中心にフィールドワークを含めた学びを行った。学習報告会では、御嵩町の活性化をテーマに、3年次生4名が「御嵩町の魅力や課題、私たちの提案」についてプレゼンテーションを行った。 ○ 郷土料理「みたけ華ずし」の手作り体験 「みたけ華ずしの会」の指導の下、3年次生「フードデザイン」選択者が郷土料理「みたけ華ずし」作りを体験した。切り分けると美しい模様が現れ、食と地域文化への理解を深めた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、地域の方と関わることに喜びを感じ、意欲的に学びを深めていた。 ・学習報告会では、自作した地域の魅力紹介動画を披露し、SNSで情報発信することの有用性を提案した。生徒は、自身の生活や地域社会に、意味をもって捉えるように変化した。 ・「華ずし」では、調理することへの喜びとともに、地域の食文化にも関心を示していた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・動画投稿など、若者だからこそできる新たな手法を教えられた思いである。 ・自分たちの言葉で地域について語っていた。自身の体験がなくてはできないことである。 ・地域の文化を伝承する機会があり、うれしい。調理法を教えながら、逆に元気をもらえた。

瑞浪高校 【普通科（単位制）、生活デザイン科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校生と地域のコミュニティ推進協議会が連携した地域活性化活動 大湫町のコミュニティ推進協議会と連携して、歴史や観光について学習した。地域の方と一緒にフィールドワークを行い、作成した案内をQRコード化して現地に掲示した。この取組みを、「卒業制作・実践活動発表会」で発表し、市長をはじめとする来場者から高い評価を得た。 ○ 高校生と地元地域が連携した地域活性化活動 各分野で活躍されている地域の大人と連携し、特産品のPR、養蜂ビジネス体験、地域からの情報発信等に取り組んだ。生徒たちが自分に何ができるかを考え、課題解決に向けて活動した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、地域活性化活動を通じて自分自身の可能性にも気づき、主体的に行動する力を身に付けることができた。学校としても、探究活動のノウハウが蓄積されてきた。 ・本校の取組みを中学生にも直に伝える機会を設け、本校の魅力を発信したい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学年が進むにつれて主体的に取り組んでいる部分が多くなり、明確な目標と具体的な手立てをもってふるさとを探究していることがよく分かった。 ・生徒が地域を探究し、その発表を行うことは、卒業後の社会生活に直接役立つことである。 ・地域の方々と連携を密にし、試行錯誤、創意工夫し、取り組んできたことを高く評価したい。

土岐紅陵高校 【総合学科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元下石町の町おこしイベントを通じた地域貢献活動の実施 「下石窯元まつり」の運営に協力した。受付・案内、駐車場係にとどまらず、子どもたちを対象にした「あそび場」を設営、運営した。また、「窯元めぐり」に参加し、地場産業を体験した。 ○ 美濃陶磁歴史館との連携による地域の文化資源の保存と活用を考える探究学習の実施 博物館リニューアルに伴う「新しいミュージアムを考える」企画に参加した。博物館を市民の集う場として考える視点で生徒たちがアイデアを出し合い、文化資源の価値を見出した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・初の試みとして、地元下石町の町おこしイベントに約30名の生徒が参加した。イベントの中で、生徒たちは自分たちに与えられた役割のポイントを見出し、自主的に活動することができた。また、「窯元めぐり」に参加した生徒は、皿の制作など地場産業を体験することができた。 ・与えられた作業をこなすことにとどまらず、「こういう企画をしてみたい」など、生徒たちのアイデアや行動力を探究学習につないでいく、年間指導計画を組むことが課題である。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・「窯元まつり」については、高校生がいなかったらイベントが回らなかったと感じている。 ・地域との連携では、地域への貢献や愛着を大切にし、幼保小中高の連携も大切にしてほしい。

恵那南高校 【総合学科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業及び自治体との三者連携により、恵那栗を素材とした6次産業学習の実施 恵那市の特産物である恵那栗やりんごについての講義から、収穫などの1次産業（生産）、2次産業（加工）を学び、商品ラベルのデザイン、販売などの3次産業（販売・サービス）を学習する「6次産業学習」を実施した。 ○ 地域で活動している方々を講師に観光資源研究活動の実施 地域で活躍している方々を講師として招き、魅力あるまちづくりのためには何をすべきかを探究するためにフィールドワークを実施した。また、地元の小学校3年生に向けての土雛づくりを継続して行い、歴史の理解を深めるとともに校種間連携学習を実施した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業学習による商品開発や観光資源研究活動による地域理解は充実した活動になり、生徒の生き生きとした活動が地域住民の方々に伝わっている。 ・この活動を、広報につなげることが課題である。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・この取組みを通して、「自分の生まれ育ったところがよいところ」だと感じられるように育てていけるとよい。 ・地域活動をいかにつながりのある活動にしていくのか、自分たちで考え深く理解することが大切である。総合学科の特色をいかして、地域や企業との連携を進めてほしい。

坂下高校 【地域探究科、福祉科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域探究活動の実施 阿寺断層でのフィールドワークを行い、成果をパンフレットにまとめ、観光客用に道の駅に設置した。また、空き屋再生や地域おこし等、地域の課題解決を軸に個人探究活動を行った。 ○ 「咲明日高校マルシェ」の開催 本校会場で「マルシェ」を開催し、生徒が学習した内容をいかした催し物や発表を行った。また約60の地元の出店者の協力も得て、1500人余りが参加する盛大なマルシェとなった。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通し、地元の良さや魅力を知るとともに、地域の方々との交流を通して知見を得ながら課題解決に向けた探究活動ができた。 ・今後は、地元の方々と継続的に連携し、それを地域の方々にわかりやすく発信できるとよい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に課題を追究し、意見交換しながら学び合う姿は素晴らしい。 ・地域にとって、マルシェを通じて生徒と交流したり、頑張っている姿を見たりすることは、大変有意義であった。地域も学校も元気になれるイベントであった。

高山工業高校 【機械工学科、電子機械工学科、電気工学科、建築インテリア工学科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が開発・生産した商品を「高山陣屋前朝市」で販売 工業商品の企画・設計・開発・製造・販売という一連の活動を通じて、職業人として必要な技術や技能、コミュニケーション能力、産業財産権、豊かな人間性等の育成をする活動をした。また、今年度は高山陣屋前朝市等にて、販売活動4回と新商品の開発や企画研究を行った。 ○ 外部講師を招いた「デザイン思考ワークショップ」の実施 地元の木材照明器具デザイナーによる講話と照明器具のデザインワークショップを行った。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・高山陣屋前朝市等での販売活動では、来場者からの要望をもとに商品改善をすることができた。また、外国人観光客とのコミュニケーションは、言語学習への意欲と自信につながった。 ・今後も工業商品の企画・設計・開発・製造・販売するサテライトキャンパス「飛驒の匠工房」の活動を通して、工業技術で地域の課題を解決し、地域の魅力を発信したい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・昔から飛驒の匠は全国で活躍し、その技術は今に伝承され根付いている。このような地域での学習活動は素晴らしいものだ。木工という全国に誇れる土壌をいかした指導を続けてほしい。 ・「デザイン実践」の選択科目は大変魅力的である。学校の一つの売りとしてもらいたい。

飛驒神岡高校 【総合学科（単位制）：連携型中高一貫教育校】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元保育園との交流会 地元保育園年長児に来校してもらい、交流会を行った。フリスビーの飾りつけと、そのフリスビーを使ったゲームをした。園児たちは大変喜び、盛り上がった。 ○ 小学生対象親子で学ぶロボット講座 高山市社会福祉協議会からの依頼で、小学生とその保護者を対象にロボット講座を行った。まず、ロボットの制作方法などについてプレゼンテーションを行い、次に小グループに分かれてロボット部員が実際のロボットを使って細かな説明やデモンストレーションを行った。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科の各系列での学びや部活動で身に付けた力を地域連携に活用している。この学習を通して、地域を身近に感じ、地域貢献をしたという充足感を味わうことができた。 ・今後も地域の様々な事業所等と連携し、自己の職業観や進路について考え、深められるような探究活動を行っていきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園児との交流は、子どもに教えることの楽しさと難しさを知り、自己の職業観を深める機会となっただけでなく、子どもたちにも高校のよさをわかってもらえてよい実践である。 ・神岡町内からだけでなく、高山市からも出前講座の依頼があり、本校が高く評価されている。

<グループ2>

山県高校 【普通科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ デュアルシステム（企業実習）の実施 工業類型選択者が、地元企業で製造業に特化した実習を実施した。社会人としての生活習慣やマナーを学ぶとともに、将来地元企業で働き、地域に貢献するという意識を養った。 ○ 福祉全般に関する交流、講義及び実習の実施 山県市の協力を得ながら、山県市社会福祉協議会主催の一般介護予防事業「まめかなクラブ」に参加し、高齢者の方々に対して体操や工作などのレクリエーションの企画・運営を行った。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習内容とも関連させながら、研究・交流活動を継続するとともに、リアルな体験を少しずつ増やしながらかつ充実した内容に発展させている。 ・ICT機器等による、新しい形の交流やボランティア活動の実施方法を検索していく。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学校外での生徒の活躍を目にする機会が多くあり、4つの類型の特徴をいかした取組みを積極的に行っていると感じる。これらの活動を更に充実させ本校の活性化につなげてもらいたい。 ・本校は地域から応援を受けている。地域を大切にしたいきめ細かな学校運営を継続してほしい。
揖斐高校 【普通科、生活デザイン科：連携型中高一貫教育校】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業及び中学校と連携した、地域に根ざすキャリア教育の実施 揖斐川町、揖斐川町商工会議所、揖斐建設業協会、J Aいびがわと連携し、デュアル実習やインターンシップを実施し、地域で育て、地域に戻り、地域を支える人材育成をめざした。また、3つの連携中学校との交流を通して、本校の魅力を伝え、中学生のキャリア教育につなげた。 ○ 揖斐川町と連携し、ふるさとの魅力について探究活動の実施 地元産の食材を使った商品を開発し、地元の方々に提供した。揖斐川町主催の行事等に参加したり、地域の人から直接、知識や技術を学ぶなど、揖斐川町の魅力や伝統を探究した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・デュアル実習やインターンシップを体験した生徒の多くが、地元への理解をより深め、進路実現に結び付けることができ、実りある取組みとなっている。 ・探究活動を通じて地域の特産物や魅力を再確認し、学習成果発表会で伝えることができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果発表会は大変すばらしかった。堂々と発表する生徒の姿に成長を感じた。 ・「デュアル実習」の実習先に農業も入れるなど、幅広い選択肢を準備してほしい。 ・地域交流や連携は、本校の教育活動の重要な柱であるので、一層進めてほしい。
池田高校 【普通科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域と連携した探究学習やキャリア教育の実施 大学教授による講演や、地域自治体や地元企業から話を聞いたり、スーパーバイザーとして大学の教授陣や学生から助言・指導を受けたりしながら探究学習を進めた。また池田町キャリア教育プログラムにより、地域で活躍する人々取材し、その内容を発表した。 ○ 地域でのボランティア活動や新たな連携を図る試みの実施 今年度発足したボランティア部をはじめ、広く生徒に呼び掛け、地域の清掃活動やイベント運営協力、植樹活動などに参加した他、水生生物の環境保護活動、吹奏楽部によるイベント演奏、特別支援学校生徒との交流学习などを行った。また通学路の安全点検を実施した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した探究活動やボランティアを通じて、身近な課題の発見とその解決を具体的に考え行動する一連のプロセスや方法、知識、態度を学び、身に付けることができた。 ・生徒がより自発的・主体的に活動に参加することで、自らの視野を広げたり、行動を変容させたりしていけるような仕掛けや計画、体制の充実が今後の課題である。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から発信していく機会があるとよい。そこを大人がサポートする。また地域企業での職場体験などが多いと進路決定の参考とすることができる。 ・ボランティア活動を通して、小・中・高校の縦のつながりが増えるとよい。

海津明誠高校 【普通科、ビジネス情報科、生活デザイン科】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 行政機関協働事業 さぼう遊学館の冬場の来館者数が少ないという課題を解決するためにイルミネーションイベント等を行った。また、民生委員が地域の独居高齢者の見守り時に配る新聞を作成した。 ○ 地域資源活用事業 海津の特産物を使ったレシピ集を作成し、道の駅にて配布した。商工会主催の海津まちゼミ応援隊では「スマートフォン講座」を開講した。地元特産の南濃ミカンを使ったミカン風呂を企画し、地元の日帰り温泉で実施した。海津市の観光地を研究し、観光マップを作成した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を通じて、地域の施設や団体と協力して事業に参加することができた。 ・探究学習では、地域の名所や特産、紹介したい場所を調べ、パンフレットにまとめることによって、地域について再発見することができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地域性が出ている。まちゼミやさぼう遊学館、新聞作りなどコロナ禍でも頑張っている。地域と接する教育の場があり、毎年楽しみにしている。 ・発表を行う経験が社会人になって生きてくる。話し方などのテクニックをもう少し磨くとよい。

関有知高校 【普通科、生活デザイン科】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の企業・団体・自治体と協働して関有知マルシェの開催 地域の方と協働し、本町商店街を中心とした本町ハウス・本町BASE・古民家あいせき・せきてらすにて、オリジナルドリンク・オリジナル弁当・オリジナルノート・手作り鶺鴒みフォークの販売、和菓子作りワークショップ、肩マッサージ、浴衣レンタルなどのマルシェを開催した。 ○ 地域の方を講師として関有知ジモト大学の開催 地域の方に講師となっていただき、竹籠作り、一輪挿し作り、コインケースの染色体験、苔玉作り、アユ菓子ストラップ作り、勾玉作り、ミニ円空彫りなどの体験授業を実施した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・関有知マルシェの来場者から、「高校生が商店街で活発に働く姿が大変よかった」という声が聞かれた。関有知マルシェ自体が本町商店街に活気をもたらし、地域貢献につながっている。 ・マルシェを通して、主体性、計画力、実行力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力などの社会人としての基礎力が身に付いた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・関有知マルシェでは、生徒の得意な分野をいかす方法を考えていくことが大切である。学校内では実施が困難でも、学校外ならばできることがあるかもしれないという視点をもちたい。 ・地域とのつながりがとても大切であり、内容を工夫しながら、取り組みを続けてほしい。

恵那農業高校 【食の農学科群、花と緑の農学科群】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種の恵那市連携事業の実施 恵那市が内閣府から「SDGs未来都市」に選定されたことを受け、環境・食・技術を切り口に、農業高校の守備範囲で、生徒が主体的に市の事業に参画している。この取り組みのなかで市内小学校での食育授業や市給食センターのメニューの開発・採用などで成果を上げている。 ○ 地域の産業界との連携事業で、最新技術の実践的な専門教育の実践 地域の特産物を生産する農業法人と連携し、有機栽培や3S農法などの技術を通じてSDGsの知見を伝達する実習や、スマート農業であるロボットによる圃場管理やドローンによる害鳥防除の技術開発の実習を生徒主体で実施し、農業のDX時代に向けて実践的に取り組んだ。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域や行政・産業界との連携により、課題研究に向かう生徒の主体性が生まれている。 ・取り組みが大型化する傾向があり、指導者、予算など活動を支えるリソースの確保が課題である。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・本校の地域での活動ぶりが、地域に伝わっており、それを学校運営協議会の委員としてうれしく思う。これらの活動を通じて異世代とのコミュニケーション能力や社会性が培われている。 ・農産物の規格外品を使った加工品開発など、実際に完成品を開発していく発想や技術が優れている。その過程での地域の方とのつながりも、将来の生き方を考えるいい機会になっている。

中津商業高校 【ビジネス科、ビジネス情報科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 飛騨・美濃伝統野菜「菊芋」の栽培と商品開発 岐阜県から飛騨・美濃伝統野菜に指定されている「菊芋」を使用し、地元加工業者の協力を得て、「腸活ジュレ」の商品開発とパッケージデザインを行い、地域のイベントで販売した。また、6次産業について学び、地域に根付く伝統野菜についての情報発信を行った。 ○ ふるさと納税返礼品開発 中津川市役所と連携し、ふるさと納税の仕組みを学んだ。返礼品の企画提案をする中で、中津川市の魅力ある特産品や観光サービスなどを学習し、地元食品業者の協力を得て、返礼品として「五平鶏」を開発した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・菊芋を使った商品開発においては、地元企業の協力を得て、菊芋を使った腸活ジュレの開発・販売を実現することができた。 ・ふるさと納税返礼品開発においては、昨年からの活動が実を結び、完成させることができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容をケーブルテレビや新聞、地元情報誌で紹介するなど、広報活動が充実している。 ・健康食品として話題の菊芋を使うという着眼点が良い。6次産業を学び、農業などの活性化について考えるきっかけを作り、卒業後にも活躍できる力を養ってほしい。

中津川工業高校 【機械工学科群、電気工学科、建設工学科群】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ ものづくり教室の実施 中津川市子ども科学館やえなしこどもフェスタ実行委員会と連携し、幼児や小学生に対して、各学科の特徴をいかし、ものづくりの楽しさを知ってもらうイベントを実施した。 ○ 地域資源を活用したものづくり教育 地元企業の先進磁性材料開発センターと連携し、自動車の無人走行制御に関する3日間の実習を行った。また、別の企業や中津川市役所と連携し、リニア中央新幹線や市内のマンホールをデザインしたキーホルダーの金型製作を行った。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な年齢の方との交流を通して、生徒のコミュニケーション能力を育成することができた。また、やりがいや達成感を感じた生徒も多く、自己肯定感を高めることができた。 ・できる限り多くの生徒が関わることができるような仕組みづくりを考えていく。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり教室など地域のイベントに参加し、地域の方へのPRを続けてほしい。 ・これからの産業を担うため、最先端技術に対応できる人材の育成を目指してほしい。 ・リニア開通に向けて変化する地区として、リニアに近い学校として積極的にPRしてほしい。

吉城高校 【普通科（単位制）、理数科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校設定教科（ESD）の学校設定科目「地域課題探究A・B・C」による探究学習 観光・文化・伝統・福祉などをテーマとして、学年を越えた12のグループを編成し、地域の課題を解決する探究活動に取り組んだ。その成果を報告会で地域の方に発信した。 ○ 吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクトの一環として「課外活動プログラム」の実施 絵本の読み聞かせ会や小学生向けのサイエンス教室、飛騨市長による地域課題ワークショップなど12のプログラムから、自分の興味・関心のある地域貢献活動に参加した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が課題を見つけ、昨年度より主体的に取り組むことができ、その課題解決のプロセスを学校内外に発信することができた。 ・現在は、希望制での参加であるが、令和5年度には2年次生の必修科目として「地域プロジェクト学習」を開講予定である。全員をどう主体的に取り組ませるかが課題である。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの成長した姿を報告会で聞くことができた。本校の探究活動の取組みを、これまで以上に地域に発信するような工夫があるとよい。 ・報告会については、高い水準であると感じた。地域課題探究の内容はすばらしく、本校内で終わらせず、市役所や小中高生が一体となって取り組むことができるとよい。

(2) 地域に密着した課題を探究する高校

【関連事業】地域課題探究型学習推進事業

<p>事業対象校</p> <p>羽島北、各務原、各務原西、本巣松陽、羽島、大垣南、大垣西、郡上、武義、加茂、多治見、中津、益田清風</p>

地域との更なる連携が望まれる普通科高校等において、地元の自治体や高等教育機関、企業等との協働により、生徒が地域の魅力を知り、地域に密着した課題を発見・解決する探究的な学びを実施した。

令和4年度の各校の主な取組みは以下のとおりである。

羽島北高校 【普通科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年次生での探究スキルの学習 探究学習のガイダンスの後、アイデア出しやプレゼンテーションなど探究のスキルを学んだ。また、大学から教授と学生を招いて、地域課題の見つけ方や解決方法の考え方を学んだ。 ○ 2年次生での「防災」の探究 修学旅行で「人と防災未来センター」の施設見学と被災体験を経て、「防災小説」を作成し、お互いの作品を読んだ感想を共有した。それをまとめて、クラス内や年次全体で発表した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習を行うことで、地域のよさや改善できる場所に気づききっかけになった。 ・生徒のアンケートでは、探究学習は有意義だったかとの質問で、「そう思う」と「ややそう思う」と答えた生徒は合計88%であり、多くの生徒が意義を感じている。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・先生も生徒も、工夫したり勉強したりして教育活動を行っていると感じた。 ・災害が起こったあとどれだけ生活が変わるか、防災グッズがどのくらい必要かを考える時間や新聞紙スリッパなどを実際に作ってみる時間なども設定できたらよいと感じた。 ・生徒のモチベーションをいかに高めるか、その環境づくりをお願いしたい。

各務原高校 【普通科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域自治体や地元企業、大学と協力した地域課題探究学習の実施 各務原市役所をはじめ、地元企業や大学からの支援を受けながら、各務原市を対象とした地域課題を設定し、調査研究を重ね、成果発表会を行った。具体的な地域課題として、「おがせ祭り」「各務原にんじん」「前渡不動」「航空産業」などの課題を設定し、取り組んだ。 ○ 地域課題探究型学習の基礎的能力の涵養 問いの立て方や課題解決の手法、発表する際の表現方法など、地域課題探究型学習に取り組んでいくうえで必要となる基本的な能力について学習した。次年度の探究型学習において、取り扱ってみたいテーマについても検討した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・各務原市についての新たな知識を得るとともに、魅力を知ることができた。 ・探究活動の最終的なゴールが不明確であり、教員・生徒に混乱が生じる場面があった。 ・単年で終了するのではなく、継続的な活動が展開できるとよい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちだけで調査研究をし、発表するスキルを磨く」という活動は素晴らしいものなので継続していただきたい。成果発表会を通して、生徒達の熱意と努力の跡が窺え感心した。 ・時間的制約が探究活動の進行に大きく影響している。改善できる点は改善してほしい。

各務原西高校 【普通科（単位制）】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業や自治体による社会人講話の実施 地元企業や自治体から11人の講師を招き、仕事内容や魅力、課題等についてのワークショップを実施した。生徒は希望の2講座に参加し、解決策を考察した。 ○ 各務原市職員との地域課題探究学習の実施 各務原市役所の各課から計9つの課題を提示してもらい、各クラス1つの課題の解決策を考える課題探究学習に取り組んだ。解決策を提案し、市役所の各課から助言等を受けた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・これらの取り組みを通して、地元の企業や自治体の魅力を知るとともに、そこにある課題について意識し、考察することができた。 ・地元の課題を意識し、その解決方法を考えることはできたが、時間の制約もあり、あまり深く掘り下げることができなかった。次年度以降、より深く探究できるよう工夫していきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地域と密着した活動で、地域の自治体や企業に支援していただいているが、地域にとってもプラスになる活動である。高校生のうちに、仕事の内容や課題を知るのはよいことである。 ・生徒達が市の課題に取り組んだが、大変意味のあることで、市としても協力を続けたい。

本巣松陽高校 【普通科（単位制）】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域ファシリテーター制度の導入による直接対話を通じた地域課題探究型学習の実施 地域ファシリテーター制度を導入し、本巣市内で課題解決に取り組まれている方々を招き、生徒の個人テーマに関する直接対話の中で、生徒の課題意識を深める取り組みを実施した。 ○ ポスター発表による論文作成能力とプレゼンテーション能力の育成 2年次では地域課題に対して設定した探究テーマについて、データを集め根拠に基づいて考察し、『私たちにできること』と題してポスター形式にまとめた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域ファシリテーター募集の際に、生徒の問題意識や探究内容に関してより具体的に示すことができれば、生徒と地域の方々の直接対話が更に充実した取り組みとなる。 ・生徒の問題意識や探究内容に応じた地域ファシリテーターの確保に努めていきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の探究テーマが多岐にわたっていたが、対話しながら探究しており、大変有意義であった。 ・地域について考察が深められており、地域の未来にとってとても頼もしい存在であると感じた。 ・発表を聞く側も、質問をする力をつけることで、より充実したポスター発表になると考える。

羽島高校 【普通科（単位制）】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域課題探究型学習講演会の開催 地元羽島市の歴史を知り、羽島市の企業として地域貢献する姿勢を学んだ。また、地元企業経営者を招聘し、ふるさとの魅力を認識し、進路選択を含めた人生設計について考える機会を得た。ふるさとの特色、企業の地域活動に対して理解を深めるよい機会となった。 ○ 羽島市教育委員会 生涯学習課と連携した地域貢献活動 絶滅危惧種に指定されている国の天然記念物である淡水魚「イタセンパラ」をモチーフにした缶バッジやタペストリーをデザイン・製作し、市内のイベントで配布・展示した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・羽島市教育委員会の協力を得て、生徒が制作した作品を市内の行事にて配布することができた。生徒が羽島市の魅力について考える機会となり、形に残るものを提供できてよかった。 ・令和5年度は外部講師（大学教授）の協力を得て、指導・助言をいただき、地域課題を探究するだけでなく、ビジネスプランづくりまで発展させた活動を行いたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生として地域課題を解決する過程で、形になることに取り組むことはとても大切である。 ・取組内容や生徒の意見や考え方を小学生や中学生に紹介し、交流してほしい。 ・今後も商店街の活性化やイベントの継続など、様々な地域課題に取り組んでほしい。

大垣南高校 【普通科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 岐阜県のスポーツ団体との交流を通じて地域課題を解決する探究学習の実施 スポーツ団体（バレーボール、ハンドボール、サッカー）によるスポーツ教室を開催し、生涯スポーツとの出会いの場を設けた。また、各チームがどのように地域貢献活動を実施しているかの現状と課題を知り、高校生の視点で課題解決策を考察した。 ○ 地元企業による出張講義や体験活動を通じた防災活動の充実 海津市歴史民俗資料館へのフィールドワークや海津市長への取材を通じて、市の防災の歴史や現在の対応策を知ることができた。また、地元企業の協力による免震車の体験を行い、生徒たちに実体験を踏まえた解決策を考える機会を設けた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献をしているスポーツ団体・企業との交流で、岐阜県がもつ魅力に気づくことができた。 ・本校生徒の自己理解を促し、将来の目標設定に役立て、本校のPR活動にもつなげていきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材との関りをもつことで、地域への理解や学びを深めることができている。この活動を通して得られることが多いので、今後も継続して行ってほしい。 ・この探究活動をきっかけにして、自分自身で動き、学校外での活動にも発展させていけるとよい。教育活動の枠にとらわれず、様々な能力を高めて行ってほしい。

大垣西高校 【普通科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究活動に関する講話・セミナーの受講 1年次生は大学や大垣市役所より講師を招き、大垣市の課題やその解決への取組みについて教えていただいた。2年次生では、プレゼンテーション講習を受講し、効果的に発表することができるようトレーニングをしたうえで、発表会を実施した。 ○ 小グループによるテーマ別の探究活動の実施 産業や環境、暮らしなど、地域課題について4～6人のグループで問いを設定し、その解決に向け、インタビューやアンケートを実施した。現状把握のうえ、分析し、解決策を提示した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通じ、現状分析から問題解決へと至る探究法と、ICTを用いた効果的な発表、そして地域の魅力発見を目指すことができた。 ・今後は、座学としての探究活動だけでなく、地域の魅力を発信し、地域社会の一員として、より実践的な役割をはたせる探究活動をめざしていきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果を学会で発表し、その経験が進路選択の動機付けになるといった効果がみられた。 ・本校の生徒は落ち着いた雰囲気の中で静かに学校生活を送れているが、一方で活発な意見の交換が不足している。身近な大人も交えた積極的な議論の中で、その成果を地域に発信できるとよい。

郡上高校 【普通科（単位制）、総合農業学科群（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者宅への訪問販売 地域の課題である高齢化に焦点をあてた。独居老人は買い物が困難であるので、高齢者宅へ本校の生産物の訪問販売を実施した。この取組みをマイプロジェクトアワードで発表した。 ○ 地域の食をいかした新製品の提案 地元のカフェの協力を得て、郡上の食材を利用したスイーツを開発し、その店舗で販売した。「奥美濃カレー」と本校のヨーグルトを組み合わせた料理や、「郡上サイダー」を使った製品などの提案も、地域の方の協力を得て、実現できる見通しをもつことができた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通じ、地域の課題や魅力を再発見し、地域の人たちと関わりながら考えを深めることができた。実際に行動をおこしたり、SNSなどで情報発信をしたりすることができた。 ・今後は、地域の人たちと願いを共有し、よりよい町づくりに参加していけるとよい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・個人探究ということで、その行動力がすばらしい。高齢化の問題は日本の課題でもあり、今後、さらに企業などと連携した取組みを行っていけるとよい。 ・新聞に掲載されたり、「アイデアコンテスト」で入賞したりするなど、本校の活躍が広報できたことは非常によかった。

武義高校 【普通科（単位制）、ビジネス情報科（単位制）】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業を知り地域社会人として「ふるさと岐阜」で活躍できる探究学習の実施 関市「みんなの就職サポートセンター」と連携し、本校の卒業生が活躍する企業等を訪問した。現場の姿や生の声を見聴きし、企業の様子や経営方針・社風などを知ることができた。 ○ 美濃市の観光の現状と課題に関する講習会の実施 美濃市観光協会から講師を招き、美濃市観光の現状と課題、それに対する取り組みについての講習を受けた。地域の課題の実情を知ることができた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通して、地元の産業や企業、そしてそこで活躍する卒業生の姿を見たり、話を聴いたりすることで、将来の自分の姿が想像でき、今後の進路の参考にすることができた。 ・地域の課題の現状を知り、探究活動につなげることができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統を継承するために、生徒自ら体験学習に取り組んでいてよかった。 ・地域の魅力を自ら調査したことがよかった。地域と連携して考えられるとさらによい。 ・探究心を常にもって、そのもの自体を深く掘り下げ、比較などを行うとさらによい。

加茂高校 【普通科、理数科】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域で活躍する職業人による、生徒の興味を広げ深める探究学習の実施 会社経営者や医療関係者、市役所職員など地域で活躍する方を講師に招き、「地域の大人と語る会」を実施した。地域社会への貢献、地域人材・外国籍人材の活用、健康・福祉・少子化問題、農村振興、観光など様々な分野について講師と意見交換を行った。 ○ 地域の課題を発見し、解決策を提案する探究活動の実施 美濃加茂市役所との連携し、市役所職員による地域課題についてのガイダンスを受講後、グループごとに課題を設定し研究した。研究発表会を実施し、45グループが観光・福祉・まちづくり・多様性など10テーマに分かれて、研究内容と解決策を相互に発表しあった。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍する大人との関わりにより、自らの進路に対する意識を高めることができた。 ・研究発表の内容やレベルにグループごとに差が見られた。今後は、中間発表会を実施するなど研究途中での指導を工夫していく。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで地域課題を見つけ、解決策について考え、その考えを人に伝える力は、社会に出ても教養以上に重要である。こういった活動を継続し、さらに充実させていってほしい。 ・学年ごとに地域課題探究を通じてどのような力を育成するかの流れができており、段階を踏んで学んでいく形がすばらしい。

多治見高校 【普通科（単位制）】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「コバエ駆除」ゼミが、校内の「町づくり」ゼミと横の連携 先輩から受け継いだ「コバエ駆除」ゼミの研究が、2年目にして大学主催のサイエンス大賞で最優秀賞を獲得した。この成果を踏まえ、校内「町づくり」ゼミと連携し、市役所の環境課から講師を招き、市役所の約10年間にわたる取り組みについて講話を聞いた。 ○ 「歴史」ゼミが、校内の「図書館」ゼミと横の連携 「歴史」ゼミでの研究が全国大会で評価されたことをきっかけに、市内の図書館との連携をしていたゼミに市民対象の講座を企画してもらった。工夫を凝らして、集客を試みた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・1年目のコバエ研究を引き継いだ2年目の学年が、一定の研究成果を出すことができた。更なる研究のため、他のゼミに仲介役になってもらい、市の協力をあおぐことができた。 ・コミュニケーション能力の育成が重要視される中、それぞれの分野について深めるだけでなく、その成果を他のゼミと合わせて発信するという活動ができ、お互いにより刺激を受けた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・先輩から後輩へと引き継ぐゼミがひとつの伝統になってきているのを嬉しく思う。 ・成果発表に関して、全教室にICT環境が整備され、発表が非常にスムーズに運営されていた。一方で、スライド作りに注力しすぎず、研究内容を充実させることも大切である。

中津高校 【普通科（単位制）】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中津高生が考えるSDGs」プロジェクト 地域課題に取り組む社会人をゲストティーチャーとして招聘し、全5回に渡り生徒と関わりながら授業を担当していただいた。生徒は、地域の課題に気づき、解決するための方法を学び、作品や雑誌、プレゼンテーションを作成し、発表を行った。 ○ 地域探究チームの活動 中津川市と連携し、地域活性化のために活動を行った。地域のイベントにスタッフとして参加したり、高校生が一番利用する駅前に、ベンチの設置やイルミネーションの制作・設置を行ったりした。2月には域学連携成果発表会・高等学校フェアにて活動を報告した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材を講師として迎えることで、生徒も新鮮な気持ちで興味深く取り組むことができた。 ・今年度より発足した「地域探究チーム」は、学校外で行った活動（発信）に対して、アンケート調査（受信）を行い、自らの活動について評価することができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・中津川市が力を入れていることを発表してくれていて、大変よい。 ・将来、中津川市に戻ってきてくれる生徒を増やすような活動にしてほしい。

益田清風高校 【普通科（単位制）、ビジネス情報科（単位制）、総合学科（単位制）】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校生の視点で考える地域課題解決に向けての探究活動 地域が直面している「地域の防災」や「地域の医療」など5つのテーマの中から、2年次生が課題を設定して個人探究活動を実施した。地域の特徴を深く調査し、様々な提案ができた。 ○ 「ふるさと」と「生徒の未来」との関わりに触れる探究 「興味ある学問分野」探究活動において、将来のキャリア形成の在り方に自身のふるさとを関連付けるようにするなど、単なる進路研究だけでない深い学びの機会となった。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・どの生徒も真剣に取り組んでおり、身近な課題を掘り下げ、「自分ごと」として活動できた。 ・幼い頃からなじみのある地域を再び見直すことで、自身の進路につながる発見をしたり、より深く考える機会が得られたりしたことは大きな成果である。 ・個人探究のため、他の生徒と情報を共有し、助言を与え合うなどの活動が少なかった。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情をよく調べ、若者にとってこの地域では、何が求められ、何が魅力的なものなのかをわかりやすく提示してくれた。 ・本校から上級学校に進学する生徒は、ほとんどが自宅を出ることになる。地域の大人としては、やりたいことと住みたい場所がこの地域でうまく重なることを望んでいる。

(3) STEAM教育等の教科横断的な視点及びグローバルな視点で課題を探究する高校

STEAM教育: Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Liberal Art(芸術/文系)、Mathematics(数学)等の各教科での学習を実社会での課題解決にいかしていくための教科横断的な教育

【関連事業】 グローカル探究実践事業

スーパーサイエンスハイスクール事業 (SSH)

地域共創フラッグシップハイスクール事業 (FRH)

理数教育フラッグシップハイスクール事業 (FSH)

事業対象校

グローカル探究実践事業

岐阜北、長良、加納、岐阜工業、大垣北、可児、恵那

スーパーサイエンスハイスクール事業 (SSH)

恵那

地域共創フラッグシップハイスクール事業 (FRH)

岐阜商業、関、多治見北、斐太

理数教育フラッグシップハイスクール事業 (FSH)

岐阜、岐山、岐阜農林、大垣東、吉城

地域の課題をグローバルな視点で捉え、ICTを活用しつつ、教科横断的で探究的な学びを通して課題を発見・解決する力を身に付け、国際舞台や地域で活躍できる人材の育成を図った。国内外の高等教育機関や地域産業等との連携により、質の高い教育カリキュラム等の研究・開発や、各教科での学習成果を活用し、実社会の課題を発見・解決する探究活動に取り組んだ。

令和4年度の各校の主な取組みは以下のとおりである。

岐阜高校 【普通科（単位制）】 理数教育フラッグシップハイスクール事業（FSH）
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 理数系分野に関心を示す生徒に対して、専門的で高度な実験実習や研究の実施 最先端の分野で活躍する研究者を招き、高度な研究の一端を体験する講座を実施した。有志で参加した「ロールス・ロイス サイエンスキャンプ」全国本戦で最優秀賞を受賞した。 ○ 各種学習会や研究大会・コンクール等に参加し、他校の高校生や研究者との交流の実施 研究成果を各種研究発表会、学会（日本学生科学賞、全国野生生物保護活動発表大会、全国総合文化祭など）で発表し、高い外部評価を受けた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・理数系分野に関する学習会や各種体験講座の実施、各種大会・コンクールへの参加によって、数多くの生徒が資質を磨き、研鑽することができた。 ・海外研修に代えて、奄美・屋久島研修を実施した。今年度の経験を次年度以降にいかしたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルリーダー養成事業として、多種多様な取り組みが行われている。 ・SDGsに関する講座は、今後の社会で非常に重要であり、積極的に取り組んでほしい。

岐阜北高校 【普通科（単位制）】 グローカル探究実践事業
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ SDGsに関するグループ探究の実施 2年次生では、クラスを解体し、SDGsのテーマを分類した「貧困・平等」「経済・産業」「教育・福祉・健康」「環境」の4講座に分かれて探究活動を進めた。各講座でグループを構成して課題を設定し、留学生との交流プログラムをはさみながら、論文・プレゼン作成と発表を行った。 ○ 進路およびメンタルヘルスに関する個人探究の実施 1年次生では、個人探究で、進路（自分の志望する職業及び学問）に関する探究およびメンタルヘルスに関する探究を実施した。文献調査を中心としながら、アンケートや取材を織り交ぜて論文やプレゼンを作成し、グループやクラス内で発表を行った。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークやアンケート調査を実施したグループもあり、その論考も興味深いものであった。探究に関わる技術の成長は著しく、探究活動への生徒のモチベーションも高かった。 ・文献調査にとどまり、探究というより「調べ学習」のレベルにある研究も見られた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表時の声が小さかった。もう少し堂々とできるとよい。 ・生徒のいきいきとした発表が見られてよかった。実際に校外で実験をしたり、取材に行ったりした生徒の取り組みやそれをバックアップした学校側の体制は、高く評価できる。

長良高校 【普通科】 グローカル探究実践事業
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学及び地元企業・NPOとの連携によるフィールドワークの実施 本校周辺の観光・産業スポットを実際に訪れることで、岐阜市の現状を知り、観光業や産業の魅力を再発見するとともに課題となる問題点を確認し、検証したことをもとに、持続可能なまちづくりのためにはどうすべきかを考え、まとめたものを発表した。 ○ 大学教員、学生及び自治体の指導助言を踏まえた探究活動の実施 SDGsについて知見を深めたうえで、興味ある分野についての課題を見つけ、大学教員等の助言を踏まえながら、課題の原因を究明し解決策を考え、英語でのプレゼンテーションを行った。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地元の魅力や課題を再発見することができた。また、物事を順序だてて考える思考力が身に付くとともに、発表会を通して発信力だけでなく、質問する力も身に付けることができた。 ・「まちサポトーク」では、生徒が地域の方々に探究活動について発信することができた。「ギフセカ」では、講師の方々の講演により、生徒は刺激をもらい視野を広げることができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動は、本校が目指す、グローバル化に対応するための英語によるコミュニケーション能力を養うよい機会となっており、よい活動である。 ・生徒の進路実現につながる探究活動を行い、視野を広げ、主体的に進路を選択できるとよい。

岐山高校 【普通科、理数科】 理数教育フラッグシップハイスクール事業（FSH）
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「海津市南濃町の防災と生活の歴史」をテーマに野外実習の実施 理数科1年生の「理数探究基礎」において、南濃町の砂防堰堤やマンボ等の利水施設、羽沢貝塚における観察・実習を実施した。直接自然に触れることで、正しい自然観を身に付け、科学的に思考する方法を学ぶことを目的とし、縄文時代からの地形変化と水害の歴史を学んだ。 ○ 持続可能な開発目標(SDGs)と地域課題についての探究活動と発表会の実施 普通科2年生では、SDGsをテーマに、2～4人の班で、岐阜市の柳ヶ瀬商店街での街おこしイベント、高山市の観光政策、岐阜県の生物多様性戦略などについての調査活動を行った。クラス内で発表した後、代表班を選び、普通科1、2年生への合同発表会で発表した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・理数科では新課程となる1年生の教科「理数」において、従来の「探究の時間」で培ったよさをいかし、自然との関係性、防災の在り方などを自然科学の視点から考察する機会を提供できた。 ・普通科2年生では探究活動を通して、グローバルな課題から地域に密着した課題まで、様々なテーマをもとにした各班の工夫を凝らした調査報告が見られた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの発表から活動にかける熱意が伝わってきた。ICTを活用していてよかった。 ・インターネットによる情報収集のみでなく、現地で直接調べる機会が与えられるとよい。
加納高校 【普通科（単位制）、音楽科、美術科】 グローカル探究実践事業
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 岐阜の課題を発見し、その背景を探究する活動の実施 1年次生では、岐阜の課題には何があるのかを見つけ、その背景を探究した。岐阜市の酪農家を訪問し酪農の現状と課題について探究する生徒や、地元企業のコジェネレーションシステムを訪問しエネルギーの地産地消について現状と課題をまとめ、社会提言をする生徒もいた。 ○ 岐阜の課題をどのように解決するのか社会提言を行う探究活動の実施 2年生では、岐阜の課題を他県や世界の課題とも関連させて、社会提言活動を実施した。岐阜県教育委員会を訪問していじめの現状と対策について調査をしたり、病院や駅前でアンケート調査をしたりするグループがあり、課題の現状を深く追究し、課題解決の社会提言ができた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な学びを進めるための環境づくりや手法が確立してきており、自発的に探究活動を進めることができる生徒が増えてきた。 ・探究活動を充実させるために、外部機関との連携やそのための予算措置、校内の人員の確保が必要となる。また探究活動を進学に結び付けられるようにしていきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地歴公民科、英語科など教科横断的に取り組んでいることはすばらしい。 ・探究的な学びを通して、自身の将来の目標を定めるきっかけが得られるとよい。
岐阜商業高校 【流通ビジネス科、ビジネス情報科、会計科、グローバルビジネス科】 地域共創フラッグシップハイスクール事業（FRH）
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツビジネスを通して地方創生を行う探究活動の実施 岐阜に拠点を置くプロスポーツチームと連携し、スポーツビジネスを通じた地方創生について探究活動を実施した。スポーツビジネスの概要や現状を分析するとともに、現地視察を通してチームの問題を把握し、チームの活性化案を企画・提案した。 ○ インバウンド需要を取り込む探究学習の実施 インバウンド需要の復活を期待し、体験農園と連携し、新たな観光の施策の提案に関するプレゼンを行うとともに、商品を開発した。また、Webマーケティングの手法を学んだ。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツビジネスの現状を把握するとともに、企業と協働で問題点や今後の方向性を探究し、プレゼンテーションすることができた。 ・コロナ禍の中、企画案の実現は困難であった。今後は、提案した内容を具現化していきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを考慮した地域のプロスポーツとの連携が実施されており、よかった。 ・取組みを継続し、今年開発した商品や企画案を具現化していくとよい。

岐阜農林高校 【動物科学科、園芸科学科、食品科学科、流通科学科、生物工学科、森林科学科、環境科学科】 理数教育フラッグシップハイスクール事業（FSH）
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元小・中学生を対象とした環境教育 子ども達が地域の生き物や自然環境に興味をもち、生き物を守り、生き物が成育できる豊かな環境を創造できるよう、地元小・中学生を対象とした環境学習会を北方町教育委員会と連携して実施した。また、町の広報誌へのコラム掲載や小学生用の環境学習用教科書の作成を行った。 ○ 鉄還元窒素固定の増強による低肥料水稻生産の取組み 水田土壌には鉄還元窒素固定菌が存在し、これらが土壌中に存在する鉄を還元する際に窒素固定を行って植物に栄養として供給する。これら菌活性を高めることで慣行施用する肥料の量を削減することを目的に地域の水田に出向き、探究活動を行った。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のイベントへの参加や、環境学習用教科書の作成など、本校の教育活動を地域に還元することができた。この活動を一過性のものにせず、継続して実施していきたい。 ・研究活動を地域の生産者（農事組合法人）とともに協働して実施できた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や地元小・中学校と連携しながら、幅広い交流活動が実践されている。 ・地域農業の技術発展に貢献している。この技術を地域へ普及してもらいたい。

岐阜工業高校 【航空・機械工学科群、電気・電子工学科群、建設・デザイン工学科群、化学・設備工学科群】 グローバル探究実践事業
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学、地元企業と連携したSTEAM教育の実践 大学と連携して、小型人工衛星を開発・製作する「ぎふハイスクールサットプロジェクト」に参加した。県の試験場にて筐体の実験・検証することで、開発のスキルを身に付けた。 ○ 建設業における担い手の育成を見据えたBIMを活用した探究学習の実施 ARCHICAD（BIMソフト）で図面を作成し、3Dプリンタ等への応用技術の探究学習を実施した。また、それらを活用した地域の歴史建造物の再現を行い、地域イベントで小学生や地域住民に対しVR体験を実施した。※BIM：Building Information Modelingの略称
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な内容を大学や企業を通じて学ぶことで、レベルの高いものづくりが実施できた。 ・BIM技術の習得から応用へと探究の幅を広げ、それを地域の魅力発信につなげることでできた。今後はBIM学習の機会を増やし、地域の協力も得て、地元貢献できる技術者を育成したい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・「この事業はどうですか？」と尋ねたら笑顔で「楽しい」と即答され、すばらしいと感じた。 ・BIMCAD、3Dプリンタ、ドローン、VRなど新しい技術を取り入れた研究は、今の世の中の動向に即した内容で、これから社会へ出ていく生徒にとって、現代の感覚を養える研究であり、非常によい。興味深いツールがいろいろと整備されており、よい環境だと感じた。

大垣北高校 【普通科】 グローバル探究実践事業
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業との連携による大垣と世界をつなぐ探究学習の実施 地元企業の海外出身社員による講演を実施し、地元大垣と東南アジア（ベトナム）をつなぐ事業について理解を深めた。国際開発分野を探究した生徒は、その後の論文作成につなげた。 ○ 大垣市役所と連携した地域活性化に向けた取組みの実施 大垣市未来ビジョン計画に基づき、6つの分野の中から各自が選択し、地域活性化に向けての探究を行った。各自が調査・アンケート・インタビュー等を行い、解決策を提案した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の専門家による講演会等は、生徒の理解を深め、探究活動の充実につながった。 ・昨年度の課題であった大垣市に関する探究活動は概ね良好に進んでいる。地元であるがゆえ、自分ごと化して地域について考え、行動に移す生徒も例年以上に増えている。この活動を継続的に行っていくことが来年度以降の課題である。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・海外に出向くことが難しい中、いかに海外と地域をつないでいくのか、再考する必要がある。 ・地元大垣市とタイアップした取組みを是非今後も継続してほしい。

大垣東高校 【普通科、理数科】 理数教育フラッグシップハイスクール事業（FSH）
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 海津市、大学と連携した清水池に生息するハリヨに関する学習と調査 理数科1年生が、大学教授のハリヨに関する講義を聞き、海津市の清水池において、フィールドワークを行った。さらに、研究班が清水池のハリヨに関する様々な調査を実施し、そのデータを海津市教育委員会に提供した。 ○ 核融合科学研究所における研修 理数科2年生が、土岐市にある核融合科学研究所において、核融合発電に関する講義、実習、施設見学をした。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然を教材とした学習や調査活動を行うことで、自然科学を身近に感じるとともに、自分たちの住む地域の特色を体験的に学ぶことができた。 ・県内にある最先端の研究施設を訪れ、学習をすることで、最先端の研究に対する興味、関心を高めることができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・これらの取組みは、学校を特色付ける行事の一つとなっているので、ぜひ継続してもらいたい。 ・地元の企業と連携した学習を通して、ふるさとを大切にする気持ちの醸成につながっている。生徒にとって有意義な連携としてほしい。

関高校 【普通科（単位制）】 地域共創フラッグシップハイスクール事業（FRH）
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域（自治体・NPO・企業等）と連携した課題解決型研究の実施 1年次生は「SDGsとまちづくり」、2年次生は「くらし・いのち・きずなとSDGs」をテーマに課題解決型研究を行った。研究成果を口頭発表用スライドや掲示用ポスターにまとめた。 ○ 地域（自治体・NPO・企業等）と連携したまちづくり活動の実施 郷土史漫画やシャッターアートの制作、特産品開発・地産地消推進のためのマルシェや中学生対象模擬国連会議、オンラインによる海外との交流など、自治体や企業、地域住民と連携した活動を、生徒主体で行った。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の自治体、域内の企業・個人との連携が深まり、校外での活動が活性化した。 ・生徒や地域から、探究活動の継続や一層の支援を望む声は強い。働き方改革との整合性を図りつつ、教員の指導力育成を図る必要がある。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・SGHやFRH活動を通じて本校がこれまで推進してきた探究活動の成果が、卒業後の活躍、リターン就職等の面で現れつつある。 ・コロナ禍ではあるが、生徒や保護者は「グローバル人材の育成」をめざす関高独自のプログラムに強い関心を抱いている。オンライン交流等、研修のあり方を工夫し期待に応えてほしい。

可児高校 【普通科】 グローカル探究実践事業
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際的リーダー育成組織との協業により探究の思考・技能を育む学習の実施 グローバルな視点で地域課題を発見・解決できる「自走型地域社会人（グローバル・リーダー）」の育成を目指すため、一般社団法人と協業し、オンラインでの講義や講演、ワークショップ、「岐阜県×リジェネラティブ」をテーマとした探究活動等を実施した。 ○ 地元企業及び自治体等の支援により地域課題探究のための事前学習の実施 可児市役所、JA、地元で活躍する弁護士や起業家・社会人の方々にご協力いただき、全10講座の講演・対話を通じて、地域課題解決の取り組みについて学んだ。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地元で活躍する方や一般社団法人の方の力を借りることで、地域課題に取り組むことは世界的な問題解決につながる、という広い視野をもち、探究学習の意義を強く感じる事ができた。 ・本校のような地方在住の高校生が、地域ならではの魅力ある探究学習へとより積極的に取り組めるよう、更なる地域連携の強化や活動機会の設定を目指したい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学校内のみで行うのではなく、外部の様々な機関とも連携した取組みは、生徒にとっても刺激がある。今、身に付けなければならない資質能力の育成を行っていると感じた。 ・数分間の発表のために、生徒は企画から調査、アンケート、プレゼンテーションの練習など、多くの時間をかけて取り組んできたことがよくわかった。生徒は達成感があつたと思う。

多治見北高校 【普通科】 地域共創フラッグシップハイスクール事業（FRH）
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 乗鞍フィールドワークの実施 乗鞍畳平の標高は約2700mで、この高低差がもたらす多様な垂直分布に伴うバイオーム変化の観察（照葉樹林・針葉樹林・高山草原）、気圧900ヘクトパスカルを下回る低圧を利用した様々な科学実験を行った。また、畳平周辺の起伏に富んだ地形を測量し、地形図の作成を行った。 ○ 図書館講座（まちづくりを学ぶ・虎渓山永保寺について学ぶ）の実施 多治見のまちづくりを進めている方を講師に招き、まちを元気にする事業に関する話を聞いた。また、虎渓山永保寺を訪れ、その歴史を聞き、国宝に指定されている建物を見学した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・多治見には体験できないような自然環境が県内にあり、感激した生徒が多数いた。 ・実験や観察が、学年を超えたグループでも協力して行うことができた。 ・参加希望者を募る行事の場合、積極性に欠ける生徒がいくらかいることが課題である。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・乗鞍フィールドワークや図書館講座といった充実した活動が実施できている。 ・FRH事業の取組みは、地元や県内の魅力を知る機会となっており、大変よい。 ・生徒発信の取組みに感銘をうけた。自分で考えて行動できる人間が求められている。

恵那高校 【普通科（単位制）、理数科（単位制）】 グローカル探究実践事業
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な探究の時間「地域のよさを形にしよう」 総合的な探究の時間に1年次生に、地域で働く社会人に地域での暮らしや活躍の場について講義してもらい、地域の良さを発信する方法や課題を解決する方法を探究した。さらに、地元企業によるデザイン指導を受けたうえで、3Dプリンタを使用して視覚化する学習を実施した。 ○ ビジネスプラン「目指せ、商品化！」 生徒の発案した「新感覚からすみ」を商品化するために、恵那市中央出張所「えなえーる」で試作を繰り返し、地元企業でプレゼンテーションを実施した。また、恵那ビジネスプランコンテストに出場し、商品名「ぷちえある」で高校生部門グランプリを受賞した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動で生まれたアイデアを発信する方法として商品開発に取り組み、恵那市農政課や地元企業と協働して、普通科、理数科の枠を超えた学びを実践することができた。 ・今後は、探究活動で培った生徒の力を地域の方に広報することで、本校の魅力を発信したい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・「目指せ、商品化！」の取り組みは、実業高校ではない本校にとって、すばらしい挑戦である。今後も地域の方と連携した実践を取り入れていただきたい。 ・同窓生で専門性をもって活躍する地域社会人に声をかけ、指導者をリストアップしてはどうか。

斐太高校 【普通科（単位制）】 地域共創フラッグシップハイスクール事業（FRH）
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の魅力と課題を発見し、その解決策を提案する地域活性化プログラムの実施 2年次生が、各自の興味・関心をもとに、地域をフィールドとして様々な分野を対象に、情報収集、インタビュー、アンケートを実施し、学校内外で発表等を行った。成果発表会では、地域の方や専門家からアドバイスや評価をいただいた。 ○ 地域で活躍される方々の講話から探究心を育む斐太高校人材育成プログラムの実施 1年次生を対象に、地域で活躍される方々の講話を聞き、交流することで、知らなかった地域の魅力や課題はもちろん、探究する姿勢を学び、生徒自らが価値観を創造し、将来につなげた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習を通じ、地域の魅力や課題を再認識することができた。 ・探究学習で扱うテーマが限定的になっている。もっと地域の幅広い分野を探究できるような工夫をしていきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・成果発表会では、どの班もしっかりまとまっており、自分たちの発見があり、そして活動の成果がたくさんあるということがよく分かった。 ・自分たちの仮説を立て、検証していくプロセスは、FRHの探究活動としてはとてもよかった。

【関連事業】スーパーハイスクールセッション（SSS）

学んだ知識を社会と関連付ける経験を通して、将来グローバル社会で活躍したり、科学技術の発展に貢献したりする人材を育成するため、県内のスーパーハイスクール指定校（16校）から意欲のある生徒が一堂に集まり、学校の枠を越えて、自発的で自由なアイデアを出し合いながら、課題解決に向けた提言をまとめた。令和4年度は、「地域の未来とカーボンニュートラルについて考える」をテーマに、岐阜大学地域協学センターとの共催で実施した。

平成30年度	岐阜、岐山、岐阜商業、岐阜農林、岐阜工業、大垣北、大垣東、関、多治見北、恵那、斐太、吉城
令和元年度 ～令和2年度	岐阜、岐阜北、長良、岐山、加納、岐阜商業、岐阜農林、岐阜工業、大垣北、大垣東、関、可児、多治見北、恵那、斐太、吉城
令和3年度	岐阜、岐阜北、長良、岐山、加納、岐阜商業、岐阜工業、岐阜各務野、岐阜農林、大垣北、大垣東、関、可児、多治見北、恵那、斐太、吉城
令和4年度	岐阜、岐阜北、長良、岐山、加納、岐阜商業、岐阜農林、岐阜工業、大垣北、大垣東、関、可児、多治見北、恵那、斐太、吉城

(4) 地域の企業等と連携した専門高校等

【関連事業】地域産業の担い手育成総合戦略事業

事業対象校

岐阜城北、大垣養老、大垣商業、大垣工業、大垣桜、郡上、多治見工業、土岐商業、坂下、中津商業、中津川工業、益田清風、飛騨高山、高山工業

※ 坂下、中津商業、中津川工業、高山工業は、地域連携による活力ある高校づくり推進事業の対象校でもある。実施報告は、13ページ以降に記載

※ 郡上、益田清風は、地域課題探究型学習推進事業の対象校でもある。実施報告は、20ページ以降に記載

※ 岐阜総合、岐南工業、岐阜各務野、加茂農林、東濃実業、可児工業は、令和元年度、令和2年度の事業指定後、その成果をもとに継続している取組みについて記載

生徒が自己の能力・適正について理解を深め、将来の自己実現に向け効果的なキャリア教育を推進するため、地域創生の担い手となる人材の育成も見据えながら、産業界と連携したインターンシップ、産業界と連携した実践的な職業教育、グローバルな視野をもつ専門高校生の育成などの取組みを展開した。

令和4年度の各校の主な取組みは以下のとおりである。

岐阜総合学園高校 【総合学科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業指導による金型の作成 地元企業の技術指導を受け、金型コンテスト射出成型部門に参加した。レーザー加工機で加工したステンレスをインサート部品とした製品を製作していく中で、金型の仕組み、設計の方法、加工方法、注意事項などの基本的なことから重要なポイントまでを学んだ。 ○ 地元企業の施設にて、実際のサービス現場についての探究学習 長良川河畔にある地元旅館の協力の下、2年次に学習した岐阜市内の観光資源に関する知識をいかして、現場での実践的な学習をした。実習に向けて、ホテルについてのプレゼンテーションや若者を呼び込める企画を作成し、当該ホテルの方に見て頂き評価をいただいた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・学校にはない、最先端の機器を使用して実習を行うことができ、それまでに学んだことをより深く理解することができた。 ・探究学習を通して、地域の特産や旅館の歴史と魅力、地元市民として地域の観光資源をより魅力的になるような企画をすることができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教員は熱心である。 ・総合学科の特徴を最大限発揮した、生徒の育成に尽力してほしい。 ・コロナ禍の今、何ができるのかを考え、生徒の心を見極め、教育してほしい。

岐阜城北高校 【生活デザイン科、総合学科（単位制）】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 実地域産業の理解と学びをいかした職業選択を目指したインターンシップの実施 ファッションコース、子ども生活コースでの学びの特徴や将来の職業選択を踏まえ、岐阜の地場産業であるアパレル関連企業と、学校近隣の保育所でインターンシップを実施し、地域を支える産業や職業人への理解を深めた。 ○ 地域の特産品を用いた商品開発を行う探究的な学習の実施 食生活コースでの学びをいかし、山県市の特産物である桑の木豆やえごまを用いた菓子類の商品開発を行った。考案したレシピを地元企業に提案し、商品化されたものを山県市の栗まつりや校内で実施されるイベント城北わいわい広場にて販売した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域産業の現状や実際の仕事への理解につながった。また、職業への関心を高め、進路実現のために身に付けておくべきコミュニケーション能力やマナー等の重要性について再認識できた。 ・今後は、インターンシップの継続的な実施、商品の改良や新商品の企画、販売場所の拡大などの発展的な取組みを行うとともに、情報発信に力を入れていきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で子どもたちに接し、自分から子どもたちとの信頼関係を築こうとする姿が見られた。次に何をすればよいか、見通しをもって行動ができ、前向きに課題をもって取り組んでいた。 ・地元のPRにもつながり、ありがたかった。今後もこのような活動を続けてもらいたい。

岐南工業高校 【機械工学科、自動車工学科、電気工学科、電子工学科、建築工学科、土木工学科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全体感教室（1年生）、知力開発支援事業（2年生）の実施 1年生は、厚生労働省岐阜労働局等の協力による安全体感機体験学習、2年生は、自動車メーカー、電力会社、弁護士等による知的財産についての講演会を実施した。 ○ ぎふサイエンスフェスティバル2022への参加 モルタル小物の製作、ペーパークラフト体験コーナー等を企画し、実施した。多くの来場者に土木技術の魅力を知っていただく機会となった。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識向上につながる活動により、生徒が成長できた。 ・来場者への接客を通して、生徒にとって貴重な体験となり、本校を知ってもらえる機会となった。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・全校課題研究発表会にて、就職内定をした生徒の学校での様子やものづくりでの活躍を知った。発表を通して得た経験を、就職先企業でも発揮して、活躍されることを期待している。 ・高校生が先生役となって、ものづくりの指導を行うのは大変よい取組みである。

岐阜各務野高校 【ビジネス科、情報科、福祉科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 特定医療法人、市防災対策課等との連携による各学科に応じた防災学習 「防災」を共通テーマに3学科の視点から迫る取組みを実施した。ビジネス科は市の防災財政、情報科は防災のI o T活用、福祉科は高齢者施設の防災対策について探究した。特定医療法人における成果発表・交流会や、3科合同発表会で探究の成果を共有した。 ○ ビジネス科による食品ロスをテーマにした商品開発 近隣の特定医療法人のシェフとビジネス科による、サツマイモ（生ごみを堆肥として栽培）を使った「クレームブリュレ」「紅はるか」「紫芋タルト」の商品開発を行った。それを市内の商業施設にて販売し、完売した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・行政や特定医療法人等の協力を得ながら、生徒に課題意識をもたせ、地域での成果発表の機会を設けることができた。 ・今年度初めて3科共通のテーマを設定した。各学科の視点や特徴をいかした取組みから活動の幅が広がり、生徒は他学科の視点からも課題追究を行うことができた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・発表会は、「聞く」「見る」「体験」「実証」という特徴のある取組みで、想像以上のものであった。 ・商品開発では、食の循環型の社会を目指すSDGsの一つの取組みとなった。

大垣養老高校 【食の農学科群、緑の農学科群、総合学科（単位制）】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域資源を活用した新たな商品開発 西濃地域特産「美濃いび茶」を活用した商品開発と6次産業化への取り組みを実施した。また、養老の滝由来の酵母によるパンの製造、ひだほまれを使った清酒の製造、岐阜県産牛乳を使ったパンの商品開発を実施した。 ○ 地域の環境資源を活用した環境教育の推進 大学と連携し、地域の希少水生生物の繁殖方法を習得した。また、木曾三川公園と連携し、河川の生物調査や水質調査の技術習得及び地域河川の食文化や治水について学習した。さらに、アクア・トトぎふと連携し、地域の希少生物や生物と水田の関わりについて専門的に学習した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携が充実したことで、より専門的で実践的な学びをすることができた。 ・商品開発や地域資源の保護、環境教育について、多くの生徒が意欲的に取り組むことができた。今後も、外部連携によって得た知見・技術を定着させ、継続的な取り組みを実施していきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・各種の取り組みにおいては、単年度で終わらず、継続的に実施することが重要である。 ・校内における組織の枠を超えた取り組みを推進し、関係機関との連携を一層深めてほしい。

大垣商業高校 【ビジネス科、ビジネス情報科】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ SDGsの視点を踏まえた養老鉄道・樽見鉄道利用者向け弁当の開発 地元企業と連携し、SDGsの視点を踏まえ、養老鉄道・樽見鉄道利用者向けの弁当の開発から販売までの流れについて学習した。また、この取り組みを大垣公園でのイベントで発表した。 ○ 養老駅・樽見駅・関ヶ原駅周辺の実地調査を踏まえた観光PR作品の制作 大垣市・養老鉄道・樽見鉄道と連携し、養老駅及び樽見駅周辺の実地調査を行い、駅周辺の観光をPRする観光マップ・動画・Webページを制作し、発信した。また、今年度新たに、JR関ヶ原駅周辺においても同様の活動を行った。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろの商業に関する専門科目で身に付けた知識・技術をいかし、地元企業・大垣市等と連携した実践活動をすることで、地域理解を深めることができた。 ・今年度の取り組みを検証し、今後も「地域を支え、地域産業を担う資質・能力をもつ専門的職業人」の育成を目指し、ビジネス教育や探究活動をさらに充実させたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動にて制作したPR動画は、グループ毎に特徴があり、よい作品であった。配信の場として、大垣観光協会・養老鉄道・樽見鉄道のホームページにつなぎ、広く公開してはどうか。 ・今後も大垣市・養老鉄道・樽見鉄道との連携を継続し、弁当開発・PR動画等の制作・配信を通して、西濃地域を盛り上げてほしい。

大垣工業高校 【機械工学科群、電気・電子工学科群、建設工学科群、化学技術工学科】
主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 産業界との連携による地域資源(恵み)の発見や活用した実践 岐阜県「地域企業ものづくりマイスターによる技術講習会」や大垣市「名工塾」の活用による技術講習会を実施した。また、地元企業人の講話や地元企業の見学を実施した。 ○ 地域団体との連携による地域資源(恵み)の発見や活用した実践 地域の特別支援学校との協働「テクノコラボレーション」、地域自治体との協働「こどもICT講座」「浦島軸整備」など、地域団体と連携した地域貢献活動を実施した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域諸団体の意欲的かつ積極的な地域貢献活動の現状を知ることができた。また、地域連携イベントに参加した生徒の自己効用感が向上した。 ・コロナ禍の影響により、オンライン型企業見学が増加している。また、地域団体との連携事業が減少するなど、生徒の実体験の機会が減少している。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業は本校で育成された「確かな知識・技術を身に付けた専門的職業人」を望んでいる。ぜひ、地元企業に残ってもらいたい。 ・いろいろなところに出向き、現場を実際に見ることで多くのことを吸収してもらいたい。 ・保護者・教員にも地元企業を深く知ってもらい、進路指導にいかしてほしい。

大垣桜高校 【服飾デザイン科、食物科、生活デザイン科、福祉科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域食材の研究と地域への提案 J Aにしみの産物（小松菜、加工キャベツ等）、関ヶ原町特産のもち米「ふわりもち」、世界農業遺産である清流長良川の鮎について、生産者との交流や県・地域機関と連携を図り、地域食材の特徴を学び、地域食材を活用した料理レシピの提案を行った。 ○ 地域産業の現状とSDGsに関する取組みの理解と持続可能な社会に向けた提案 地域の企業の立ち上げたSDGsブランドに、服飾デザインを提案し、企業の協力のもと、商品サンプルを作成した。サンプルは卒業研究作品発表会、大型ファッションモールでのファッションショー形式で紹介し、そのうちの2点の商品化が決定した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産物、産業の発見や働く方々の思いを知ることができた。 ・地域が行っているSDGsの取組みに対する課題解決は、自分たちの生活行動の見直しであることに気付くことができた。今後は消費活動などの生活行動の変化につなげる活動をしたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源をいかした体験を一緒にすることや地域活動に対する質問をしていくことが、地域にとっても大きな効果になっていく。 ・成果は、なかなか目には見えないが、地域も生徒も一緒になって取り組むことが必要である。

加茂農林高校 【食品科学科、園芸流通科、環境デザイン科、森林科学科、生産科学科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ あじさいをイメージした商品開発 美濃加茂市の色「コバルトブルー」と花「あじさい」をイメージした、あじさいマカロン、バターフライピーティー、和菓子を開発し商品化したことで天然色素となるバターフライピーの栽培を本校だけでなく地域に広げることができた。 ○ 耕作放棄地対策と地域活性化の取組み 耕作放棄地となっている地区に美濃加茂市の花であるあじさいを植栽した「あじさいロード」づくりは4年目の取組みとなる。さらに昨年度に引き続き今年度も、地元自治会と連携し、地元の住民と共に活動を展開する取組みとして、「美濃加茂焼きそば」の販売会を実施した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の一環であるため、活動時間の確保が難しい。 ・高校生は商品開発をすることはできるが、継続的な商品の生産は困難であるため、市やJ Aを中心とした協力機関のもと、役割分担し、展開できるとよい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動は、新聞等でもよく取り上げられ、地域に広く認知されている。 ・その結果が、入学希望生徒の増加や倍率向上につながっている。

東濃実業高校 【ビジネス科、ビジネス情報科、生活デザイン科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元の特産品、伝統をいかした商品開発やPR活動 郷土料理「サヨリ飯」を地元の方に取材して再現し、企業と協働して商品化した。広告作成、道の駅での販売、クラウドファンディングなどこの伝統食を広められるよう活動した。他にも地元の特産品を用いた商品開発を行ったり、特産品を紹介する新聞を発行したりした。 ○ 御嵩町の行事等への積極的な参加による地域連携 地域のイベントに出店したり、ファッションショーや地元の伝承を扱った紙芝居などを披露したりした。イベントの準備や案内係などにも主体的に加わり、地域の方々とふれあうことができた。また、誤嚥を防ぐレシピや嚥下体操などを考案し、高齢者福祉施設との交流で披露した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・販売活動を通して、今まで学習をしてきた「商業の学び」を遺憾なく発揮することができた。地元の方々とコミュニケーションを図れたことで、地域の温もりを感じることもできた。 ・地域連携の活動を継続していくことで、今後も「地域愛」を深められる活動をしていきたい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・OB、保護者、地域が一体となって生徒を育てようとしている。こうした環境がすばらしい。 ・若者に向けての情報発信にはインスタグラムやティックトックを用い、高齢者には印刷物を用いるなど、ターゲットに合わせてメディアを使い分けていてよい。

可児工業高校 【機械工学科、電気工学科、建設工学科群、化学技術工学科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 産学連携事業として地元企業による講演会の実施 機械工学科の1年生を対象に地元企業から講師を招き、講話や実技指導をしていただいた。講話では、生産現場での先端技術について話をしていただいた。実技指導では、技能五輪に向けた高度な旋盤技術を学んだ。 ○ 地元建設系企業と連携して中長期インターンシップの実施 建設工学科2年生を対象に建設系企業で、9月～11月の毎週火曜日に希望者28名が終日の就業体験を行い、12月には、受入企業と建設工学科群1年生に対して、成果報告会を実施した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・直接企業の方からの話を聞き、進路意識を高めることや、国際感覚を意識させることができた。また、実技指導では、高度な技術を直接見たことで今後の授業への意識を高めることができた。 ・学校では体験できないような経験が、建設業への興味付けになっているが、希望者が増加しており、受入企業の確保が課題である。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業との連携は是非続けてほしい。 ・インターンシップについては、2～3日では中々身にならないが、建設工学科のこのやり方はいろいろな工程が見られてよい。中長期での体験は、進路を決めるうえでよい経験になる。

多治見工業高校 【電子機械工学科、電気工学科、産業デザイン工学科、セラミック工学科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業と連携した、ものづくり体験の実施 「テーブルウェア デザインコンペ」において、生徒がデザインしたものが、どのように商品化されるかまで体験することができ、大変よい経験となった。また、地元小学校150周年記念シンボルマーク及び屋上壁画デザインを制作した。 ○ 地元のカフェと連携した、接客体験の実施 楽市楽座にて、TAKOボーイズカフェを実施した。製作した陶器製品を提供しカフェを運営したが、生徒もよい経験となり、たくさんのお客様に喜んで頂いた。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域と交流することで、様々なことを理解し、発見することもできた。 ・身近な地域交流での経験により、専門的な知識や技術が人に役に立つことを実感し、喜びを感じるとともに、責任の重さを学んだ。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・現場に馴染めない新入社員も多いため、離職率が高いのが現状である。上下関係が希薄になり、学校現場において経験しなければならないことが少なくなったため、もまれ弱い若い人が増えたと感じる。困難を乗り越えられる人材の育成など、時代に合った教育が必要である。

土岐商業高校 【ビジネス科、ビジネス情報科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元陶器市「オータムフェア」の企画・運営 本校の地域連携事業「美濃焼プロジェクト」。地元産業の抱える課題である「20代の女性の顧客層の獲得」のために、キッチンカーの誘致や陶芸体験、ECサイトの開設とライブコマースによる配信など、プロジェクトチームで運営に取り組んだ。 ○ 地域情報提供サイトの再構築考案 地域資源のPRに特化させるために既存の地域情報提供サイトを再構築し、公式LINEを開設した。持続可能な土岐市の未来について考え実践した。土岐商工会議所や土岐市役所の協力のもと、グローバルに情報発信しながら、地域資源の活用に尽力している。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・産官学民での取組みは、土岐市だけでなく、県内外の美濃焼ユーザーや新規顧客の開拓への動きを実現した。来年度以降、アジア圏でのサイダーの販売を検討している。 ・継続的な研究のため、教員間での情報共有を密にし、持続可能な仕組み作りを研究したい。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な学びがふると教育とつながっており、学校の特色ある取組みになっている。 ・各学科・各コースでの取組みが一つにつながるような動きができると、さらによい。

飛騨高山高校 【普通科、食の農学科群、緑の農学科群、ビジネス科、ビジネス情報科、生活デザイン科】
主な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域特産品を利用した6次産業化への研究 令和3年度新たに導入されたチーズ製造装置を利用してモッツアレラチーズを製造したが、見た目と食感に課題があったため、地元企業のチーズの専門家と連携し、岐阜県下初の試みとなる高校生チーズの商品化を目指して取り組んだ。 ○ 環境モニタリングを活用した高品質なトマト栽培の研究 飛騨の主要農産物であるトマトの3Sシステムによる栽培を中心とした学習を展開し、農業後継者を育成するとともに、I o Tに対応した農業技術の育成を図り、地域社会で活躍する人材を育てる学習を実施した。
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・スクールマーケットでのチーズの販売は好評であった。今後も、酪農・乳業界の活性化を図りたい。 ・モニタリングデータを活用したトマト栽培では、ハウス内温度と湿度をコントロールすることで、灰色カビ病の発生を抑制し、反収16トンを達成できた。
学校運営協議会等の外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・チーズ販売について、もっと「高校生がつくった」とか「製造から販売までしている」とか商品のラベルなどでアピールするとよい。 ・「I o Tの活用によって労働時間が何時間減ったか。」等を数値化して示せるとよい。

(5) ふるさと魅力体験事業

「ふるさと岐阜」への愛着をはぐくむふるさと教育の一貫として、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、岐阜関ヶ原古戦場記念館など、県の自然・歴史・文化・産業等に関する施設や史跡等を訪れ、体験活動や教育プログラム等を実施することにより、岐阜県の魅力を新たに発見し、見識を広げた。

令和4年度実施校：岐阜、羽島、大垣東、大垣養老、大垣桜、海津明誠、郡上北、八百津、東濃、土岐紅陵、恵那農業、中津、益田清風、斐太
(令和元年度からの5年間で全県立高校63校が実施予定)

(6) ふるさと教育の成果

(ア) 各高校の特性に応じた多様な取組み

自治体や大学、企業等と連携し、市長や大学教授等による講演会や、グループ別の地域フィールドワークを行うなど、県内の自然・歴史・文化・産業等を体験して学ぶ活動や課題発見・解決型学習が、全ての県立高校において、各高校の特性に応じて展開された。

学校訪問時の聞き取りや学校が生徒に対して行っているアンケート等において、地域との交流や人前での発表を通してコミュニケーション能力が身に付いた、中学生に出前講座をすることで自己肯定感が得られた、など生徒の内面的な成長についても報告されている。また、学校運営協議会等の外部の方からも、取組みに対する肯定的な意見が多く得られた。

(イ) 県教育委員会によるふるさと教育推進のための取組み

6月には、新たに採用された教員向けの研修において、ふるさと教育の理念や取組みの概要についての説明を行った。各高校の魅力化・活性化を推進するための、また、探究的な学びを推進する施策としてのふるさと教育について、共通理解を図った。

また、8月には、県議会閉会中の常任委員会協議会において、各高校のふるさと教育の具体的な取組みと今後の方向性について報告した。

さらに、11月には、各高校から事業担当者1名が参加した「ふるさと教育関連事業担当者会議」を開催した。各高校の取組内容や課題を共有することで、各高校のふるさと教育の取組みがさらに充実し、今後も持続可能なものとなるよう支援した。

2-3 ICT活用に関する取組み

(1) 教育DXやICT活用指導力向上に係る教員研修

DXによる教育の情報化や校務の効率化を図るとともに、1人1台タブレット端末等のICT環境を基盤とした学びをさらに充実するためには、教員の知識やスキル向上が必要となる。そこで、専門講師による「DXによる社会変革の動向や教員の働き方改革」の講義や、タブレット端末や導入ソフトに対応した実践的な実技研修を充実させたほか、1人1台タブレット端末を授業でより効果的に活用することを目指して、ファシリテーションや問題解決型学習といった「授業デザイン」に関する教員研修も実施し、市町村を含めた県全体の教員のICT活用能力の底上げを図った。県立学校においては、ICTを授業で使用した教員の割合が、1年間で7.6ポイント(※)上昇した。

(※ 県教育委員会が実施した「県立学校教員用ICT活用に関するアンケート」において、R4.1の81.3%からR5.1の88.9%に上昇)

◎教育DXやICT活用指導力向上に係る研修講座（DX対応教員研修事業含む） 【研修Ⅰ】DXによる教育の情報化の推進（4回、講師：団体代表理事、大学教授等） 【研修Ⅱ】授業デザインDX（18回、講師：大学教授、企業有識者、研究所代表等） 【研修Ⅲ】ICT活用実技（9回、講師：NPO理事長、システム開発企業講師等）

(2) ICT環境を活用した授業改善

学習支援ソフトのMetaMoJi Classroomやmanaba、Microsoft 365のアカウントを県で一括して調達し、県立高校のすべての生徒に付与することで、それらを活用した学びが各学校において実践されている。

ICT教育推進室の指導主事等が定期的に学校を訪問し、校内研修の支援や他校の活用事例を共有することで、ICT環境の効果的な活用と授業改善を推し進めた。

今年度は、コロナ禍で中止していたICT活用公開授業を「普段使いの1人1台端末」を共通テーマとして再開し、13校で20回実施した。のべ282名が参観し、普段の授業でICT環境を活用する方法を共有した。

県教育委員会が実施した「県立高校生徒用ICT活用に関するアンケート」において、学習内容の理解が高まったと実感した生徒や、自分の考えや意見を表現できる、教え合い学び合いができると回答した生徒が増えており、ICTの活用

が協働的な学びにつながるということが表れている。

「県立高校生徒用ICT活用に関するアンケート」結果にみる『学びの変化』

項目	R 3 年 2 月		R 4 年 7 月
授業の進め方が変わった	70%	→	80% (+10 ポイント)
学習内容の理解が高まる	57%	→	75% (+18 ポイント)
自分の考えや意見を表現できる	36%	→	64% (+28 ポイント)
教え合い学び合いできる	43%	→	64% (+21 ポイント)

(3) 校務のデジタル化による働き方改革の推進

ICTを活用した学びとは別の視点として校務のデジタル化による働き方改革についても、昨年度に引き続き取り組んだ。昨年度7つのモデル校で研究した成果として作成された「校務のデジタル化」の事例集(※)を参考に、今年度はすべての県立学校においてICT推進計画に「校務のデジタル化」を含めることを必須として、普及を推進した。

◎校務「校務のデジタル化」普及の例

○欠席連絡のデジタル化(電話当番を廃止)した学校の割合

46.7%(R3.12) → 90.5%(R5.2)

※ 日本マイクロソフト株式会社・慶應義塾大学SFC研究所・岐阜県教育委員会による産学官連携協定

○ 令和3年度から和4年度までの2年間にわたり、次の2つの事業に取り組んだ

・校務のデジタル化による教員の働き方改革の推進

7つのモデル校の研究成果として「校務のデジタル化」の事例集を作成

・「未来を創る学び」共同研究

「正解のない課題に対して、他者とともに答えを見出していく力を身に付ける学び」を教員自身が体験

(4) ICTを活用した学校を越えたコミュニティの支援

学校長や図書司書など一人職と呼ばれ、学校内に1名しかいない職務の新規採用者や転任者など、職務経験年数が短い職員は相談する相手が見つからず、困りごとを抱え込む傾向が多い。校内の一人職の職務に関する情報交換を促すため、気楽に相談できる場所(オンラインコミュニティ)をMicrosoft Teams上に作成した。日本マイクロソフト株式会社のアドバイスを受けて運用し、困りごとの相

談や職務のノウハウの共有を行うことで、職務で抱える問題解決の一助とした。

◎県が開設したコミュニティの例

○校長コミュニティ

○図書館システムコミュニティ（図書司書・システム開発業者）

3 令和5年度以降の取組内容と今後の方向性

(1) ふるさと教育の推進

岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）にもとづき、地域と高校を強く結び付ける「ふるさと教育」の枠組みの中で、ふるさとを教材とした、地域の魅力を知り、課題を発見・解決する探究的な学習を全ての高校で展開している。

令和5年度を、第3次岐阜県教育ビジョンの最終年度として、第4次岐阜県教育ビジョンの策定へとつなげる年度であると位置づけ、全県立高校で、各高校の特色に応じて、地域と連携したふるさと教育を展開する。

<令和5年度ふるさと教育の概要>

令和5年度 高校における「ふるさと教育」の展開		学校支援課、教育総務課
これまでの取組 R5年度 当初予算 主な関連事業（第3次岐阜県教育ビジョン最終年度）		
急激な生徒減少期において ▶ 教育水準を確保し、ふるさと教育を通じ、高校の特性に応じた高校活性化の取組を展開 ▶ 教育機会を保障するため		
普通科高校 地域の課題をグローバルな視野で捉えた探究的な学びを推進し、国際舞台や地域で活躍できる人材を育成 大学や地元自治体等、関連機関等との協働により、地域の魅力を知り課題を発見・解決する学習を推進	【創】グローバル探究実践事業 7,500千円 文系・理系の枠に捉われない探究的な学び（STEAM教育）を通じて、課題の発見・解決や社会的な価値を創造する資質・能力の育成を図る <取組例> 国内外の新規機関や国際的な企業、地域の関係者等と連携した研究活動 等	岐阜北、美丘、加納、岐阜工、大垣北、可児、豊田
地域の小規模高校（グループ1・2の高校） 学校と地域を強く結びつける活動を通じて、地域の魅力を発信し、課題を解決する学習をさらに推進 地域や保護者の理解・協力を得ながら、学校の活性化に向けて、地域に根ざした学校運営をさらに促進	【創】地域共創フラッグシップハイスクール事業 19,000千円 豊かな語学力・コミュニケーション能力、異文化理解の精神等を身につけ、地域創生などの様々な分野で活躍できるグローバル・リーダーの育成を図る <取組例> 国内外の大学、研究機関等と連携した研究活動、地域の自然を活用した探究活動 等	岐阜南、関、多治見北、豊太
専門高校 産業界等との連携を通して、地域の資源を活用した取組を推進させ、地域産業を担う専門的職業人を育成 実践的・体験的に探究的な学びを推進し、学問横断的な取組を通じて、地域の課題解決に向けた取組を推進	【創】理数教育フラッグシップハイスクール事業 11,500千円 理数分野における課題発見・解決学習のカリキュラム開発を通じて、主体的・協働的に自ら学ぶことができる人材育成を図る <取組例> 国内外の大学、研究機関等と連携した研究活動、地域の自然を活用した探究活動 等	岐阜、岐阜南、岐阜農林、大垣東、吉城
	【創】地域課題探究型学習推進事業 8,480千円 産官学で連携し、ICTを利活用するなどして地域課題を発見し、解決を目指す実践的な学びを通じて、社会を主体的に生き抜く人材育成を図る <取組例> 地域との連携による出前授業等を活用した探究活動 等	羽島北、各務原、各務原西、本巣松原、羽島、大垣南、大垣西、郡上、岐阜、加茂、多治見、中津、田原南
	【創】地域連携による活力ある高校づくり推進事業 11,960千円 学校の活性化に向け、地域と密接に連携した取組を通じ、各学校の特色に応じた探究的な学びを推進、地域創生の担い手となる人材育成を図る <取組例> 学校・地域による活性化のためのAIやIT分野実習・見学研修、地元企業と連携した企業実習 等	山崎、桂原、赤松、不破、海津朝日、郡上北、関有知、八百津、東濃、瑞浪、土岐朝日、鳥羽南、鳥羽南、関下、中津南、中津北、高山工、西郷、西郷南
	【創】地域産業の担い手育成融合戦略事業 12,400千円 実践的な体験等を通して、地域産業を担う専門的職業人の育成や国際感覚を有した職業人としての基礎形成等を推進 ・事業指定校・非事業指定校の2カテゴリーでの結果を事業・業種ごと、新たに地域間協働の学びのモデル構築 ・事業指定校以外、事業指定年度が開始の職業科、新卒採用準備の学びに定着させる取組を編成	岐阜総合、岐阜南、岐阜各務野、岐阜農林、大垣南、可児工 ※ その他の専門科設置校（状況により事業指定）
	【創】学校運営協議会設置費 9,041千円 学校・保護者・地域の連携を強化し、学校運営に主体的・協働的に関わることで、学校と地域の活性化を図る	全県立高校・特別支援学校

◎ 未来を支え、未来を創る人材の育成 ◎ 「第4次教育ビジョン」の策定

(2) 学校運営協議会の更なる活性化

学校運営協議会について、本県では、平成30年度に県立学校11校に設置し、以降、導入校を順次拡大してきた。ふるさと教育関連事業で提案された地域の声を反映しながら、地域住民等と学校が連携・協働し、さらに魅力ある高校づくりに取り組めるよう、令和3年度に、全県立学校83校に学校運営協議会を設置した。

これまで整備してきた関係機関等との連携協力体制を維持・継続するとともに、学校運営協議会の委員の構成に留意し、高校の特色化・魅力化等に向けて、学校運営協議会と高校が一体となって議論を深める等、学校運営協議会の更なる活性化を図っていく。

(3) 進学指導推進事業の推進

県立高校における大学合格実績の更なる向上を図るため、昨今の入試で定員の比率が増えている総合型選抜、学校推薦型選抜に対応できる力の育成に重点を置き、探究型学習等による生徒の思考力と、面接・小論文等に対応できる教員の指導力の育成を図る。進学指導重点校事業では、令和4年度の指定校のうち3年に渡って指定した2校では、指導法の蓄積に一定の成果が得られたため指定を外し、14校から12校に精選して実施する。

(ア) 進学指導重点校事業：指定校を見直し、12校に精選して実施

令和4年度：長良、岐山、羽島北、各務原、各務原西、大垣東、大垣西、郡上、関、多治見、多治見北、恵那、中津、斐太
令和5年度：長良、岐山、羽島北、各務原、各務原西、大垣東、大垣西、郡上、関、多治見北、恵那、斐太

(イ) 進学指導連携事業：大学進学指導連絡協議会への支援を継続

大学進学指導連絡協議会幹事校：岐阜、岐阜北、大垣北、関、可児、多治見北、恵那、斐太

(ウ) 県総合教育センターによる専門研修事業を継続

県総合教育センター講座の研修として、大学入試問題の分析とそれにもとづく効果的な学習・指導方法の在り方を研究する講座を引き続き開設する。

(4) 高等学校における演劇等ワークショップ事業の継続

演劇手法を用いた協働活動を通して、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図るため、令和4年度と同規模の14校で実施する。

平成30年度～：山県、羽島、揖斐、不破、東濃、恵那南

令和元年度～：郡上北、関有知、土岐紅陵、坂下、飛騨高山（山田キャンパス）
飛騨神岡

令和2年度～：華陽フロンティア（定時制）、飛騨高山（定時制）

（５）校務のデジタル化による働き方改革の推進

令和3年度から令和4年度にわたり産学官連携協定に基づき取り組んだ、校務のデジタル化事業によるモデル校での簡素化・効率化の優良事例について、オンラインコミュニティや研修等を通じて、今後も継続して全県立学校への普及を図る。

（６）Wi-Fi環境の拡充

Wi-Fi環境が未整備の体育館アリーナや一部の特別教室などに無線アクセスポイントを整備し、1人1台タブレット端末が活用できる環境を拡充する。

（７）教育DXに関する教員研修の拡充

デジタル技術は日々進展しており、DXやICT活用による教育の情報化や校務の効率化をより一層推進するため、DXに関する専門知識を有する講師を招聘した講演や、総合教育センターにおける1人1台タブレット端末等のICT環境を授業に活用する実技演習等、教員の知識やICT活用スキル向上を図る教員研修を実施する。

4 令和6年度の学科改編等

(1) 令和6年度学科改編等について

「平成28年度の検討まとめ」において、具体的な活性化策を例示したグランドデザインにもとづいた学科改編等が概ね実施できたことから、令和6年度の学科改編等については実施しない。

なお、それ以降の学科改編等については、次期岐阜県教育ビジョンの内容を踏まえつつ、引き続き検討を継続し、必要に応じて行う。

(2) 県外募集実施校

令和6年度県立高等学校入学者選抜においても引き続き、特色のある教育や全国で活躍する部活動を実施している学校で、県外からの募集を実施する。

県外募集実施校の募集学科、検査内容や選抜方法等を含めた選抜の概要は、県教育委員会ホームページ等で発表する。

(3) 令和6年度県立高等学校入学者選抜

令和6年度県立高校入学者選抜の概要及び日程については、令和5年5月末を目途に県教育委員会ホームページ等で発表する。

5 「県立高校活性化の基本方針(グランドデザイン)」策定後の取組みの成果と課題

平成 28 年 3 月に岐阜県立高等学校活性化計画策定委員会から提出された「審議まとめ」を受け、県立高校活性化に関する各年度の取組結果と翌年度以降の取組内容等を、「検討まとめ」として取りまとめてきた。

平成 31 年 3 月に策定した「岐阜県教育振興基本計画(第 3 次岐阜県教育ビジョン)」では、本県の教育施策の基本的な考え方として、「ふるさとに誇りをもち、『清流の国ぎふ』を担う子どもたちの育成」を掲げ、「ふるさと教育の充実」と「ICT環境の整備と利活用の推進」の二つを、今後 5 年間で重点的に取り組む施策としたことから、「検討まとめ」では、県立高校入学者選抜や学科改編等に関する取組内容と並んで、この二つの重点施策に関連する多様な取組内容が報告されてきた。

令和元年度以降、全ての県立高校にふるさと教育関連事業を指定することで、ふるさと岐阜を題材とした探究的な学びを全県下に普及・展開してきた。本年度を含めこれまでに取りまとめられた「検討まとめ」からは、コロナ禍により一時的に活動を制約される場面もあったが、感染症対策を徹底しながら、各高校の特性に応じて、地域と協働した各高校の活性化・魅力化のための取組みが継続的に実施されたことがわかる。これは、ふるさと教育の理念や取組体制などが、各高校に相当程度根付いたことを意味している。

一方、少子化はさらに進行する見通しであり、教育水準の確保と教育機会の保障をしていくため、ふるさと教育の取組みによる魅力ある高校づくりについて、県立高校の活性化策として、今後も引き続き検討していく必要がある。その検討においては、令和 5 年度が、現在の第 3 次岐阜県教育ビジョンの最終年度であることに鑑み、これまでのふるさと教育の取組みを総括する必要があるが、学校規模の変化や入学定員の充足状況など、数値として把握しやすい視点からだけでなく、社会の諸課題の解決に関する知識や技能、地域課題を多面的・多角的に分析する能力、その解決方法を検討・提案できる能力など、生徒の内面的成長など質的な視点も含め、総括の在り方についても議論していく必要がある。

6 資料編

- ・ **参考資料 1** 中学校卒業予定者数の推移（全体／地区別）
- ・ **参考資料 2** 県外募集に関するチラシ、広報
- ・ **参考資料 3** 県立高等学校の特色の案内パンフレット
- ・ **参考資料 4** 高校生の意識に関する調査

参考資料 1 中学校卒業予定者数の推移（全体／地区別）

< 全県 >

令和4年5月1日 現在 < 学校基本調査 >

高校入学年月 学 年	R4.4 高1	R5.4 中3	R6.4 中2	R7.4 中1	R8.4 小6	R9.4 小5	R10.4 小4	R11.4 小3	R12.4 小2	R13.4 小1
岐阜	7,503 前年比 ▲ 126 R4.4比 ▲ 126	7,377 ▲ 126 ▲ 126	7,464 87 ▲ 39	7,147 ▲ 317 ▲ 356	7,284 137 ▲ 219	6,986 ▲ 298 ▲ 517	6,946 ▲ 40 ▲ 557	6,759 ▲ 187 ▲ 744	6,581 ▲ 178 ▲ 922	6,742 161 ▲ 761
西濃	3,451 前年比 ▲ 208 R4.4比 ▲ 208	3,243 ▲ 208 ▲ 208	3,323 80 ▲ 128	3,144 ▲ 179 ▲ 307	3,184 40 ▲ 267	3,162 ▲ 22 ▲ 289	3,062 ▲ 100 ▲ 389	2,910 ▲ 152 ▲ 541	2,778 ▲ 132 ▲ 673	2,718 ▲ 60 ▲ 733
美濃	1,354 前年比 ▲ 54 R4.4比 ▲ 54	1,300 ▲ 54 ▲ 54	1,270 ▲ 30 ▲ 84	1,286 16 ▲ 68	1,285 ▲ 1 ▲ 69	1,345 60 ▲ 9	1,208 ▲ 137 ▲ 146	1,222 14 ▲ 132	1,116 ▲ 106 ▲ 238	1,070 ▲ 46 ▲ 284
可茂	2,178 前年比 ▲ 58 R4.4比 ▲ 58	2,120 ▲ 58 ▲ 58	2,087 ▲ 33 ▲ 91	2,074 ▲ 13 ▲ 104	2,121 47 ▲ 57	2,096 ▲ 25 ▲ 82	2,085 ▲ 11 ▲ 93	2,021 ▲ 64 ▲ 157	2,008 ▲ 13 ▲ 170	1,949 ▲ 59 ▲ 229
東濃	2,830 前年比 117 R4.4比 117	2,947 117 117	2,771 ▲ 176 ▲ 59	2,715 ▲ 56 ▲ 115	2,791 76 ▲ 39	2,717 ▲ 74 ▲ 113	2,656 ▲ 61 ▲ 174	2,523 ▲ 133 ▲ 307	2,483 ▲ 40 ▲ 347	2,400 ▲ 83 ▲ 430
飛驒	1,227 前年比 4 R4.4比 4	1,231 4 4	1,297 66 70	1,221 ▲ 76 ▲ 6	1,171 ▲ 50 ▲ 56	1,198 27 ▲ 29	1,107 ▲ 91 ▲ 120	1,104 ▲ 3 ▲ 123	1,028 ▲ 76 ▲ 199	1,047 19 ▲ 180
県全体	18,543 前年比 ▲ 325 R4.4比 ▲ 325	18,218 ▲ 325 ▲ 325	18,212 ▲ 6 ▲ 331	17,587 ▲ 625 ▲ 956	17,836 249 ▲ 707	17,504 ▲ 332 ▲ 1,039	17,064 ▲ 440 ▲ 1,479	16,539 ▲ 525 ▲ 2,004	15,994 ▲ 545 ▲ 2,549	15,926 ▲ 68 ▲ 2,617

<岐阜地区>

令和4年5月1日 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学 年	R4.4 高1	R5.4 中3	R6.4 中2	R7.4 中1	R8.4 小6	R9.4 小5	R10.4 小4	R11.4 小3	R12.4 小2	R13.4 小1
岐阜市	3,741 前年比 ▲108 R4.4比 ▲108	3,633 ▲108 134	3,767 134 ▲186	3,581 ▲186 ▲16	3,565 ▲16 ▲173	3,392 ▲173 24	3,416 24 ▲70	3,346 ▲70 ▲178	3,168 ▲178 ▲573	3,368 200 ▲373
羽島市	643 前年比 10 R4.4比 10	653 10 ▲69	584 ▲69 68	652 68 ▲29	623 ▲29 ▲28	595 ▲28 8	603 8 ▲35	608 ▲35 5	556 5 ▲52	564 8 ▲79
各務原市	1,374 前年比 24 R4.4比 24	1,398 24 ▲41	1,357 ▲41 ▲60	1,297 ▲60 31	1,328 31 ▲43	1,285 ▲43 26	1,311 26 ▲76	1,235 ▲76 ▲7	1,228 ▲7 ▲146	1,283 55 ▲91
山県市	227 前年比 ▲35 R4.4比 ▲35	192 ▲35 30	222 30 ▲24	198 ▲24 ▲1	197 ▲1 ▲2	195 ▲2 ▲13	182 ▲13 14	196 14 ▲5	191 ▲5 ▲36	151 ▲40 ▲76
瑞穂市	559 前年比 ▲2 R4.4比 ▲2	557 ▲2 55	612 55 ▲71	541 ▲71 95	636 95 ▲33	603 ▲33 ▲38	565 ▲38 ▲22	543 ▲22 20	563 20 ▲19	544 ▲19 ▲15
本巣市	359 前年比 9 R4.4比 9	368 9 ▲48	320 ▲48 ▲11	309 ▲11 ▲18	291 ▲18 24	315 24 ▲24	291 ▲24 ▲27	264 ▲27 11	275 11 ▲18	257 ▲18 ▲102
本巣郡	179 前年比 ▲3 R4.4比 ▲3	176 ▲3 23	199 23 ▲35	164 ▲35 31	195 31 ▲24	171 ▲24 ▲7	164 ▲7 ▲2	162 ▲2 14	176 14 ▲11	165 ▲11 ▲14
羽島郡	421 前年比 ▲21 R4.4比 ▲21	400 ▲21 3	403 3 2	405 2 44	449 44 ▲19	430 ▲19 ▲16	414 ▲16 ▲9	405 ▲9 19	424 19 ▲14	410 ▲14 ▲11
岐阜地区	7,503 前年比 ▲126 R4.4比 ▲126	7,377 ▲126 87	7,464 87 ▲39	7,147 ▲317 ▲356	7,284 137 ▲219	6,986 ▲298 ▲517	6,946 ▲40 ▲557	6,759 ▲187 ▲744	6,581 ▲178 ▲922	6,742 161 ▲761

<西濃地区>

令和4年5月1日 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学 年	R4.4 高1	R5.4 中3	R6.4 中2	R7.4 中1	R8.4 小6	R9.4 小5	R10.4 小4	R11.4 小3	R12.4 小2	R13.4 小1
大垣市	1,372 前年比 ▲52 R4.4比 ▲52	1,320 ▲52 105	1,425 105 ▲105	1,320 ▲105 63	1,383 63 ▲3	1,380 ▲3 ▲4	1,376 ▲4 ▲89	1,287 ▲89 ▲34	1,253 ▲34 ▲86	1,286 33 ▲86
海津市	307 前年比 ▲48 R4.4比 ▲48	259 ▲48 26	285 26 ▲28	257 ▲28 15	272 15 ▲32	240 ▲32 ▲8	232 ▲8 0	232 0 ▲46	186 ▲46 ▲99	208 22 ▲99
養老郡	253 前年比 ▲9 R4.4比 ▲9	244 ▲9 ▲10	234 ▲10 13	247 13 ▲23	224 ▲23 1	225 1 ▲31	194 ▲31 11	205 11 ▲30	175 ▲30 ▲86	167 ▲8 ▲86
不破郡	335 前年比 ▲21 R4.4比 ▲21	314 ▲21 ▲8	306 ▲8 ▲15	291 ▲15 19	310 19 ▲24	286 ▲24 ▲44	242 ▲44 25	267 25 ▲46	221 ▲46 ▲125	210 ▲11 ▲125
安八郡	496 前年比 ▲44 R4.4比 ▲44	452 ▲44 1	453 1 ▲22	431 ▲22 5	436 5 ▲12	424 ▲12 28	452 28 ▲79	373 ▲79 51	424 51 ▲60	364 ▲60 ▲132
揖斐郡	688 前年比 ▲34 R4.4比 ▲34	654 ▲34 ▲34	620 ▲34 ▲68	598 ▲34 ▲90	559 ▲39 ▲129	607 48 ▲81	566 ▲41 ▲122	546 ▲20 ▲142	519 ▲27 ▲169	483 ▲36 ▲205
西濃地区	3,451 前年比 ▲208 R4.4比 ▲208	3,243 ▲208 80	3,323 80 ▲128	3,144 ▲179 ▲307	3,184 40 ▲267	3,162 ▲22 ▲289	3,062 ▲100 ▲389	2,910 ▲152 ▲541	2,778 ▲132 ▲673	2,718 ▲60 ▲733

<美濃地区>

令和4年5月1日 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学 年	R4.4 高1	R5.4 中3	R6.4 中2	R7.4 中1	R8.4 小6	R9.4 小5	R10.4 小4	R11.4 小3	R12.4 小2	R13.4 小1
関市	802	795	790	815	794	824	737	742	669	647
	前年比	▲ 7	▲ 5	25	▲ 21	30	▲ 87	5	▲ 73	▲ 22
	R4.4比	▲ 7	▲ 12	13	▲ 8	22	▲ 65	▲ 60	▲ 133	▲ 155
美濃市	171	166	147	146	168	167	146	148	152	138
	前年比	▲ 5	▲ 19	▲ 1	22	▲ 1	▲ 21	2	4	▲ 14
	R4.4比	▲ 5	▲ 24	▲ 25	▲ 3	▲ 4	▲ 25	▲ 23	▲ 19	▲ 33
郡上市	381	339	333	325	323	354	325	332	295	285
	前年比	▲ 42	▲ 6	▲ 8	▲ 2	31	▲ 29	7	▲ 37	▲ 10
	R4.4比	▲ 42	▲ 48	▲ 56	▲ 58	▲ 27	▲ 56	▲ 49	▲ 86	▲ 96
北部 (内数)	(198)	(169)	(187)	(152)	(176)	(174)	(162)	(170)	(145)	(157)
	前年比	(▲ 29)	(18)	(▲ 35)	(24)	(▲ 2)	(▲ 12)	(8)	(▲ 25)	(12)
	R4.4比	(▲ 29)	(▲ 11)	(▲ 46)	(▲ 22)	(▲ 24)	(▲ 36)	(▲ 28)	(▲ 53)	(▲ 41)
南部 (内数)	(183)	(170)	(146)	(173)	(147)	(180)	(163)	(162)	(150)	(128)
	前年比	(▲ 13)	(▲ 24)	(27)	(▲ 26)	(33)	(▲ 17)	(▲ 1)	(▲ 12)	(▲ 22)
	R4.4比	(▲ 13)	(▲ 37)	(▲ 10)	(▲ 36)	(▲ 3)	(▲ 20)	(▲ 21)	(▲ 33)	(▲ 55)
美濃地区	1,354	1,300	1,270	1,286	1,285	1,345	1,208	1,222	1,116	1,070
	前年比	▲ 54	▲ 30	16	▲ 1	60	▲ 137	14	▲ 106	▲ 46
	R4.4比	▲ 54	▲ 84	▲ 68	▲ 69	▲ 9	▲ 146	▲ 132	▲ 238	▲ 284

<可茂地区>

令和4年5月1日 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学 年	R4.4 高1	R5.4 中3	R6.4 中2	R7.4 中1	R8.4 小6	R9.4 小5	R10.4 小4	R11.4 小3	R12.4 小2	R13.4 小1
美濃加茂市	560	595	561	591	608	591	590	588	571	558
	前年比	35	▲ 34	30	17	▲ 17	▲ 1	▲ 2	▲ 17	▲ 13
	R4.4比	35	1	31	48	31	30	28	11	▲ 2
可児市	1,001	965	973	906	962	949	945	903	905	869
	前年比	▲ 36	8	▲ 67	56	▲ 13	▲ 4	▲ 42	2	▲ 36
	R4.4比	▲ 36	▲ 28	▲ 95	▲ 39	▲ 52	▲ 56	▲ 98	▲ 96	▲ 132
加茂郡	444	429	388	433	387	401	387	382	362	379
	前年比	▲ 15	▲ 41	45	▲ 46	14	▲ 14	▲ 5	▲ 20	17
	R4.4比	▲ 15	▲ 56	▲ 11	▲ 57	▲ 43	▲ 57	▲ 62	▲ 82	▲ 65
可児郡	173	131	165	144	164	155	163	148	170	143
	前年比	▲ 42	34	▲ 21	20	▲ 9	8	▲ 15	22	▲ 27
	R4.4比	▲ 42	▲ 8	▲ 29	▲ 9	▲ 18	▲ 10	▲ 25	▲ 3	▲ 30
可茂地区	2,178	2,120	2,087	2,074	2,121	2,096	2,085	2,021	2,008	1,949
	前年比	▲ 58	▲ 33	▲ 13	47	▲ 25	▲ 11	▲ 64	▲ 13	▲ 59
	R4.4比	▲ 58	▲ 91	▲ 104	▲ 57	▲ 82	▲ 93	▲ 157	▲ 170	▲ 229

＜東濃地区＞

令和4年5月1日 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学 年	R4.4 高1	R5.4 中3	R6.4 中2	R7.4 中1	R8.4 小6	R9.4 小5	R10.4 小4	R11.4 小3	R12.4 小2	R13.4 小1
多治見市	919 前年比 R4.4比	927 8 8	917 ▲ 10 ▲ 2	923 6 4	895 ▲ 28 ▲ 24	903 8 ▲ 16	874 ▲ 29 ▲ 45	785 ▲ 89 ▲ 134	814 29 ▲ 105	776 ▲ 38 ▲ 143
土岐市	467 前年比 R4.4比	525 58 58	461 ▲ 64 ▲ 6	444 ▲ 17 ▲ 23	490 46 23	500 10 33	429 ▲ 71 ▲ 38	422 ▲ 7 ▲ 45	439 17 ▲ 28	427 ▲ 12 ▲ 40
瑞浪市	343 前年比 R4.4比	333 ▲ 10 ▲ 10	332 ▲ 1 ▲ 11	310 ▲ 22 ▲ 33	295 ▲ 15 ▲ 48	291 ▲ 4 ▲ 52	280 ▲ 11 ▲ 63	294 14 ▲ 49	282 ▲ 12 ▲ 61	280 ▲ 2 ▲ 63
東濃西部	1,729 前年比 R4.4比	1,785 56 56	1,710 ▲ 75 ▲ 19	1,677 ▲ 33 ▲ 52	1,680 3 ▲ 49	1,694 14 ▲ 35	1,583 ▲ 111 ▲ 146	1,501 ▲ 82 ▲ 228	1,535 34 ▲ 194	1,483 ▲ 52 ▲ 246
恵那市	418 前年比 R4.4比	446 28 28	402 ▲ 44 ▲ 16	430 28 12	408 ▲ 22 ▲ 10	402 ▲ 6 ▲ 16	428 26 10	375 ▲ 53 ▲ 43	349 ▲ 26 ▲ 69	345 ▲ 4 ▲ 73
旧恵南地区 (内数)	(116) 前年比 R4.4比	(129) (13) (13)	(131) (2) (15)	(125) (▲ 6) (9)	(114) (▲ 11) (▲ 2)	(121) (7) (5)	(120) (▲ 1) (4)	(95) (▲ 25) (▲ 21)	(90) (▲ 5) (▲ 26)	(95) (5) (▲ 21)
中津川市	683 前年比 R4.4比	716 33 33	659 ▲ 57 ▲ 24	608 ▲ 51 ▲ 75	703 95 20	621 ▲ 82 ▲ 62	645 24 ▲ 38	647 2 ▲ 36	599 ▲ 48 ▲ 84	572 ▲ 27 ▲ 111
旧恵北地区 (内数)	(206) 前年比 R4.4比	(209) (3) (3)	(214) (5) (8)	(205) (▲ 9) (▲ 1)	(191) (▲ 14) (▲ 15)	(186) (▲ 5) (▲ 20)	(173) (▲ 13) (▲ 33)	(181) (8) (▲ 25)	(158) (▲ 23) (▲ 48)	(156) (▲ 2) (▲ 50)
東濃東部	1,101 前年比 R4.4比	1,162 61 61	1,061 ▲ 101 ▲ 40	1,038 ▲ 23 ▲ 63	1,111 73 10	1,023 ▲ 88 ▲ 78	1,073 50 ▲ 28	1,022 ▲ 51 ▲ 79	948 ▲ 74 ▲ 153	917 ▲ 31 ▲ 184
東濃地区	2,830 前年比 R4.4比	2,947 117 117	2,771 ▲ 176 ▲ 59	2,715 ▲ 56 ▲ 115	2,791 76 ▲ 39	2,717 ▲ 74 ▲ 113	2,656 ▲ 61 ▲ 174	2,523 ▲ 133 ▲ 307	2,483 ▲ 40 ▲ 347	2,400 ▲ 83 ▲ 430

＜飛騨地区＞

令和4年5月1日 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学 年	R4.4 高1	R5.4 中3	R6.4 中2	R7.4 中1	R8.4 小6	R9.4 小5	R10.4 小4	R11.4 小3	R12.4 小2	R13.4 小1
高山市	805 前年比 R4.4比	791 ▲ 14 ▲ 14	802 11 ▲ 3	776 ▲ 26 ▲ 29	752 ▲ 24 ▲ 53	746 ▲ 6 ▲ 59	714 ▲ 32 ▲ 91	698 ▲ 16 ▲ 107	664 ▲ 34 ▲ 141	670 6 ▲ 135
飛騨市	177 前年比 R4.4比	181 4 4	203 22 26	167 ▲ 36 ▲ 10	160 ▲ 7 ▲ 17	186 26 9	160 ▲ 26 ▲ 17	172 12 ▲ 5	163 ▲ 9 ▲ 14	165 2 ▲ 12
旧神岡町 (内数)	(44) 前年比 R4.4比	(43) (▲ 1) (▲ 1)	(58) (15) (14)	(38) (▲ 20) (▲ 6)	(46) (8) (2)	(43) (▲ 3) (▲ 1)	(42) (▲ 1) (▲ 2)	(49) (7) (5)	(42) (▲ 7) (▲ 2)	(56) (14) (12)
下呂市	228 前年比 R4.4比	249 21 21	284 35 56	266 ▲ 18 38	251 ▲ 15 23	253 2 25	216 ▲ 37 ▲ 12	222 6 ▲ 6	189 ▲ 33 ▲ 39	196 7 ▲ 32
大野郡	17 前年比 R4.4比	10 ▲ 7 ▲ 7	8 ▲ 2 ▲ 9	12 4 ▲ 5	8 ▲ 4 ▲ 9	13 5 ▲ 4	17 4 0	12 ▲ 5 ▲ 5	12 0 ▲ 5	16 4 ▲ 1
飛騨地区	1,227 前年比 R4.4比	1,231 4 4	1,297 66 70	1,221 ▲ 76 ▲ 6	1,171 ▲ 50 ▲ 56	1,198 27 ▲ 29	1,107 ▲ 91 ▲ 120	1,104 ▲ 3 ▲ 123	1,028 ▲ 76 ▲ 199	1,047 19 ▲ 180

岐阜県立高校 で学んでみませんか



岐阜県の県立高校では、

19校が県外募集を実施します※

募集する学科（群）や詳細については裏面をご覧ください

本件に関するお問い合わせ先

岐阜県教育委員会 教育総務課 教育企画第二係 電話：058-272-8729

Mail：c17765@pref.gifu.lg.jp

※令和5年度県立高校入学者選抜において
写真は岐阜城天守閣から望む長良川

清流の国ぎふ

各学校で募集する分野・学科（群）

特色ある教育での募集

加納高校	音楽：音楽科
多治見工業高校	セラミック：セラミック工学科
恵那農業高校	ふるさと教育（食、花と緑） ：食の農学科群、花と緑の農学科群
坂下高校	福祉：福祉科
益田清風高校	ふるさと教育（地域文化伝承） ：総合学科
高山工業高校	建築インテリア ：建築インテリア工学科

県外募集
専用ホームページ

全国で活躍する部活動での募集



羽島北高校	フェンシング：普通科
岐阜総合学園高校	ホッケー（男子）：総合学科
岐阜城北高校	硬式野球（男子） ：生活デザイン科、総合学科
岐阜商業高校	硬式野球（男子） ：流通ビジネス科、ビジネス情報科、 会計科
岐南工業高校	自転車競技 ：機械工学科、自動車工学科、電気工学科、 電子工学科、建築工学科、土木工学科
岐阜各務野高校	ホッケー（女子）：ビジネス科
大垣南高校	フェンシング：普通科
大垣東高校	水球（男子）：普通科
大垣商業高校	体操：ビジネス科
海津明誠高校	ヨット ：普通科、ビジネス情報科、 生活デザイン科
関有知高校	ライフル射撃 ：普通科、生活デザイン科
加茂高校	ボート：普通科、理数科
飛騨神岡高校	ロボット：総合学科

岐阜県教育委員会



岐阜県立高校で 未来へ 飛び立とう

県立高校で「夢」を追求しよう!

特色・魅力ある学び

ふるさと教育と探究的な学び

ICTを活用した多様な学び




学びの充実度

「日常の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う」と答えた高校生の割合*

R1	71.9 [%]
R2	76.2 [%]
R3	77.5 [%]

学校に対する満足度

「今の高校に入学して満足している」と答えた高校生の割合*

R1	82.2 [%]
R2	83.6 [%]
R3	84.6 [%]

高校生の意識に関する調査より(県立高校2年生対象、毎年10月県教育委員会調べ) ※「あてはまる」「ややあてはまる」と回答したもの

令和4年9月
岐阜県教育委員会

特色・魅力ある学び



あなたのチャレンジを応援します



「多彩な学科」で 充実した学びができます

各地域に多彩な学科を設置し、皆さんの挑戦を応援しています。県内どの地域からでも、すべての公立高校に出願できるので、自分に合った進路選択が可能です。



「探究活動」と「探究的な学び」で 多様な学びができます

県立高校では、すべての全日制と定時制の学校で生徒全員にタブレット端末を整備し、ICTを活用した多様な学びを推進しています。ICTをツールにして、「ふるさと教育」を通じた「探究的な学び」により、皆さんの進路実現を図ります。



「地域・企業・大学との連携」で 深い学びができます

大学や企業などの外部機関と連携し、高度で専門的な知見に基づいた、より深い「探究的な学び」に取り組んでいます。

また、すべての県立学校に学校運営協議会を設置し、地域と一体となった魅力ある学校づくりを目指しています。

SSS(スーパー・ハイスクール・セッション)

令和4年度は、意欲ある生徒たちが学校の枠組みを超えて岐阜大学に集まり、岐阜県の抱える地域課題の解決を目指して、自由にアプローチしました。大学生や大学の先生と交流したり、各学校で学んだ知識を実社会と関連付けたりすることで、お互いの学びをさらに発展させました。



ふるさと教育と探究的な学び



「探究」による主体的・対話的で深い学びを実現します



地域の産業界とともに 探究活動を行います

地域の産業界と連携して、各方面の専門家から直接学び、実習で体験することを通じて、地域の課題解決に向けた探究的な学びを推進しています。これらの実践的な学びを通して、地域産業の担い手として地域の企業等で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。



地域とともに活性化に 取り組みます

地域とともに活性化する学校づくりを目指して、学校と地域が互いに連携してアイデアを出し合い、地域課題を発見・解決する学びを推進しています。多様な進路に対応できる学力を育むとともに、地域の活性化に貢献できる人材の育成に取り組んでいます。



地域に密着した探究的な 学びができます

地域に密着することで地域の魅力を知り、地元の自治体、大学、企業等と協働して地域の課題解決に向けた探究的な学びを推進しています。ふるさとへの誇りや愛着とともに、自分の考えを伝える力を育み、学力の向上を通して地域で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。



グローバルな視点で 活躍できる力を養います

地域の課題等をグローバルな視点で捉え、国内外の関係機関等と連携して課題解決に向けた探究的な学びを推進しています。知的好奇心や自分の考えを伝える力を育み、幅広い学力の向上を通して国際舞台や地域で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

ICTを活用した多様な学び



「より分かる授業」を展開します



ICTで「探究的な学び」を実現します

「Microsoft 365 Education」はMicrosoft Officeをはじめ、Teamsなどを含むコラボレーションツールで、県立高校の生徒全員にライセンスを発行しています。グループのメンバーとTeams上での意見交換や、Power Pointの共有による共同制作などを通じて「探究的な学び」をより深めることができます。



ICTで「分かる授業」を支援します

生徒同士や生徒と先生がリアルタイムに画面を共有できる授業支援ツール「MetaMoji Classroom」では、先生の問いに対してタブレット端末に書き込んで解答ができ、その最中に先生からリアルタイムに助言を受けることもできます。また、生徒が互いの画面に書き込みながら共に学び、発表者の画面をクラス全員のタブレット端末に表示して発表することもできます。



ICTで「学びの世界」を広げます

オンライン会議システム等により、学校外の連携機関とつながることで、学びの場を地域や海外にまで広げることができます。気象警報発表時など学校が臨時休業となった場合でもオンライン学習支援に切り替え、学びを継続します。家庭学習を支援するクラウドサービス「manaba」を活用し、小テストやレポートなどに取り組むことや、先生に質問することができます。学習過程を保存し、振り返るポートフォリオとしても活用できます。

県立高校では学習の基盤となるICT環境の整備が完了

- ・教室にはホワイトボード、プロジェクタ、無線LAN等が完備
- ・生徒全員に1台ずつタブレット端末を貸与(全日制・定時制)

コラボレーションツール	Microsoft 365 Education
授業支援ツール	MetaMoji Classroom
家庭学習支援ツール	manaba

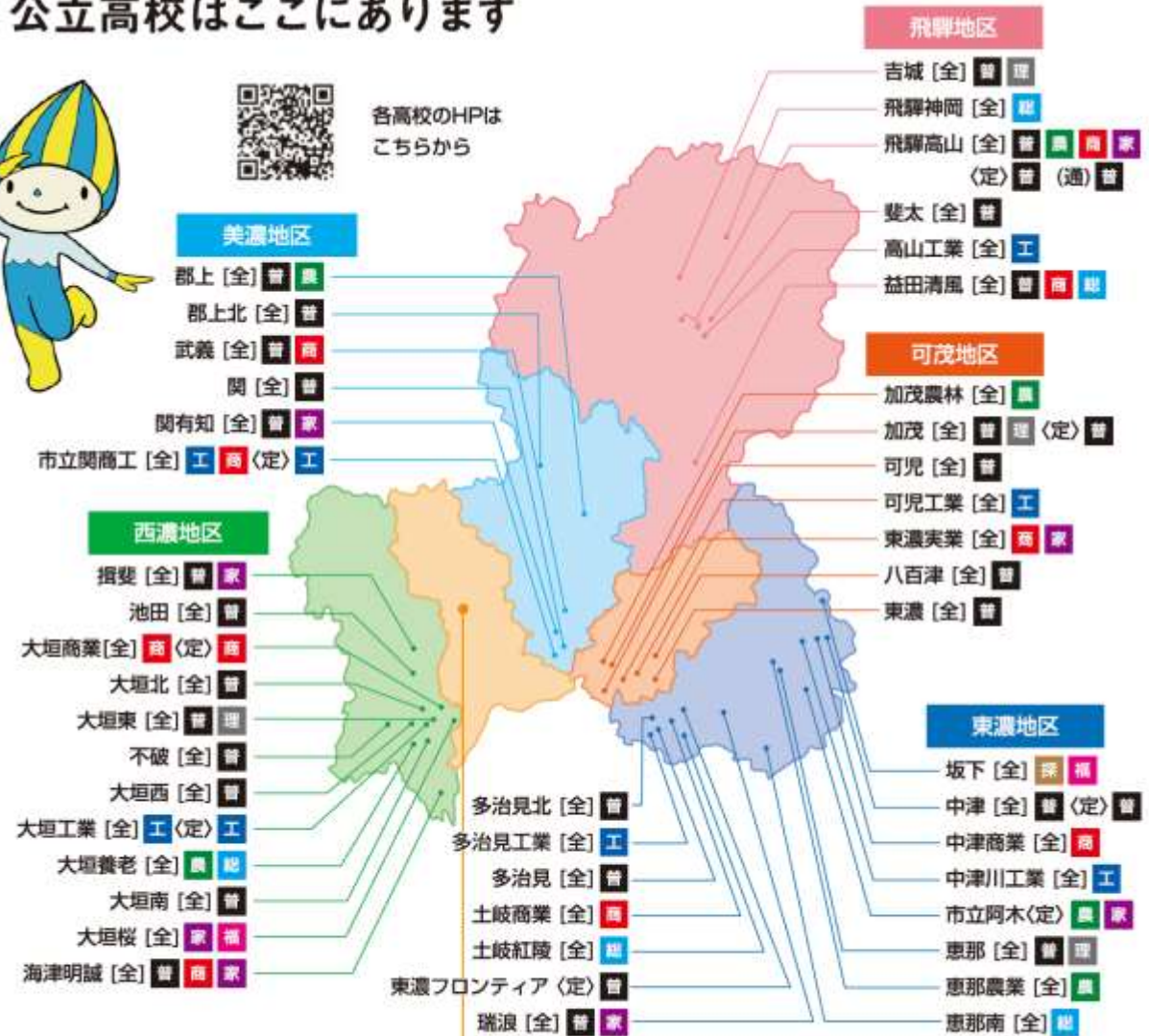
学習支援ツールの活用により
学び方が変わる

- 学習方法が広がる
- 視覚的に情報が伝わる
- 授業がより楽しくなる
- 効率よく学習できる など

公立高校はここに 있습니다



各高校のHPはこちらから



普	普通科	理	理数科
探	地域探究科	美	美術科
音	音楽科	工	工業科
農	農業科	情	情報科
商	商業科	家	家庭科
福	福祉科	総	総合学科

[全].....全日制課程
 <定>.....定時制課程
 (通).....通信制課程





Q1 公立高校にはどんな学科があるの？

A1 高等学校の学科は、学習内容から、「普通教育を主とする学科」、「専門教育を主とする学科(専門学科)」、「総合学科」の3つに大きく分けられます。

普通教育を主とする学科には、共通教科(国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報)を中心に学習する普通科と、共通教科のほかに地域社会が抱える課題や魅力について学習する地域社会に関する学科(地域探究科)があります。

専門教育を主とする学科(専門学科)の中で、職業に関する学科には農業、工業、商業、生活産業(家庭、福祉)、情報があり、共通教科のほかに職業に関する専門科目を学習します。その他の専門科目を置く専門学科に理数科、音楽科、美術科があります。

総合学科では履修が必要な科目のほかに、共通科目や専門科目などを総合した多様な科目の中から、生徒が主体的に選択した科目を学びます。

Q2 高校入試の情報を知りたい場合はどうすればいいの？

A2 県教育委員会のホームページに高校入試の情報をまとめています。確認してみてください。

○高校入試に関する情報、過去の出願状況、学力検査の結果、中学生のための進路情報

○高校入試のしくみ、入学定員等の情報



入学定員は10月末までに発表

Q3 高校入試についてわからないことがある場合はどうすればいいの？

A3 初めての入試ですので、不安に感じている人も多いと思います。これまで高校入試を受験した先輩からの質問を、よくある質問「公立高等学校の入学選抜制度Q&A」として県教育委員会のホームページに掲載していますので、参考にしてください。

○公立高等学校の入学選抜制度Q&Aは [こちら](#)から



岐阜県では、意志あるすべての生徒が安心して教育を受けられるよう、授業料や教育費の負担軽減のための各種支援制度を実施しています。 ※金額等については令和4年度現在のものであり、変更の可能性があります。

高等学校等就学支援金

国の就学支援金制度で、公立全日制の場合、条件によっては最大年間118,800円が助成されます。

高校生等奨学給付金

教科書学用品等の授業料以外の教育費の負担を軽減するため、非課税世帯等(※1)の生徒に対し、県から奨学給付金が給付されます。条件によっては、最大年間143,700円が給付されます。

(※1)新型コロナウイルス感染症に係る影響により、家計が急変した世帯の生徒にも奨学給付金が支給されます。

<支給条件> ●保護者等が岐阜県内に在住していること ●高等学校等に在学していること 等

(公立高校)	生活保護受給世帯	非課税世帯等(※2)	
		非課税世帯等(第1子)	非課税世帯等(第2子以降)
全日制・定時制	32,300円	114,100円	143,700円
通信制		50,500円	
専攻科	50,500円		

(※2) 非課税世帯等(第2子以降)とは、当該高校生以外に15歳(中学生を除く)以上23歳未満の扶養されている兄弟姉妹がいる世帯の場合をいいます。

上記の他、岐阜県では次のような奨学金制度(貸付型・申請条件有)を設けています。

- 岐阜県選奨生奨学金 (最大月額 40,000円)
- 岐阜県高等学校奨学金 (最大月額 28,000円)
- 岐阜県子育て支援奨学金(最大月額 28,000円)

これら制度に関する問合せ先 ☎ 岐阜県教育委員会 教育財務課 管理経理係 TEL058-272-8734(直通)

このパンフレットの内容に関するお問い合わせは、下記まで。

岐阜県教育委員会 教育総務課 教育企画第二係

TEL : 058-272-8729(直通) E-mail : c17765@pref.gifu.lg.jp



このパンフレットで使用している写真は、新型コロナウイルス感染症対応以前のものも含まれています。

参考資料4 高校生の意識に関する調査

- ・ 目的 県立高等学校の高校生の日常生活における意識について調査
- ・ 実施 令和4年10月
- ・ 対象 県立高等学校2年生全生徒 回答数 11,387人 (回答率 94.3%)

No	質問項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	計	2022	2021	2020	2019	2018	差	
	選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない							未記入・未回答	肯定意見	肯定意見	肯定意見	肯定意見	肯定意見	2018年との差	
1	朝食を毎日食べている。	77.1%	12.9%	4.6%	5.4%							0.0%	100.0%	90.0%	90.9%	90.7%	90.5%	90.9%	-0.9%
2	自分には、よいところがあると思う。	39.7%	43.4%	12.7%	4.3%							0.0%	100.0%	83.0%	81.2%	79.3%	78.3%	76.2%	6.8%
3	将来の夢や目標を持っている。	37.7%	32.8%	19.3%	10.2%							0.0%	100.0%	70.5%	69.6%	69.8%	68.8%	68.8%	1.7%
4	高校で学んだことを生かした職業に就きたいと思う。	30.3%	41.9%	19.5%	8.3%							0.0%	100.0%	72.2%	72.0%	71.8%	70.2%	68.4%	3.8%
5	学校行事（体育祭や文化祭など）には積極的に参加する。	57.3%	32.2%	8.0%	2.5%							0.0%	100.0%	89.5%	85.8%	86.8%	85.1%	84.7%	4.9%
6	岐阜県や自分の住んでいる地域の産業や伝統について知っている。	23.3%	48.2%	22.2%	6.4%							0.0%	100.0%	71.4%	70.2%	67.3%	65.4%	64.4%	7.1%
7	岐阜県や自分の住んでいる地域の魅力を伝えることができる。	18.4%	39.9%	30.9%	10.8%							0.0%	100.0%	58.3%	57.3%	55.1%	53.3%	51.0%	7.3%
8	今住んでいる地域の行事に参加している。	13.9%	27.3%	35.1%	23.8%							0.0%	100.0%	41.2%	42.0%	40.7%	39.5%	38.2%	3.0%
9	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	19.1%	41.2%	28.3%	11.4%							0.0%	100.0%	60.3%	59.1%	59.5%	58.2%	53.9%	6.4%
10	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	12.8%	28.7%	38.5%	20.0%							0.0%	100.0%	41.5%	41.6%	40.1%	38.9%	34.9%	6.6%
11	18歳になったら投票（選挙）に行こうと思う。	49.4%	32.7%	12.0%	5.9%							0.0%	100.0%	82.1%	77.3%	77.1%	77.6%	74.3%	7.8%
12	今の高校に入学して満足している。	47.6%	38.3%	10.2%	3.9%							0.0%	100.0%	85.9%	84.8%	83.8%	82.2%	80.9%	5.1%
13	日常の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	27.3%	50.6%	18.3%	3.8%							0.0%	100.0%	77.9%	77.5%	76.2%	71.9%	69.6%	8.3%
14	日常の授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると思う。	19.7%	44.6%	28.2%	7.5%							0.0%	100.0%	64.3%	62.3%	58.4%	54.1%	51.4%	12.9%
15	日常の授業では、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	29.3%	47.5%	18.1%	5.1%							0.0%	100.0%	76.8%	74.8%	71.9%	65.1%	61.9%	14.9%
	選択肢	話をしている	どちらかといえば話をしている	あまり話をしていない	全く話をしていない							未記入・未回答	肯定意見	肯定意見	肯定意見	肯定意見	肯定意見		
16	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	50.5%	29.9%	14.6%	4.2%							0.8%	100.0%	80.4%	79.8%	78.6%	77.4%	77.1%	3.3%
	選択肢	参加したことがある	参加したことがない	わからない								未記入・未回答	参加	参加	参加	参加	参加		
17	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	65.9%	18.7%	14.1%								1.2%	100.0%	65.9%	70.3%	68.8%	67.6%	66.1%	-0.1%
	選択肢	大学に進学する	短期大学に進学する	専門学校に進学する	海外の大学等に進学する	就職する	パート・アルバイト	就職も進学もしない	その他	まだわからない		未記入・未回答	大学進学希望	大学進学希望	大学進学希望	大学進学希望	大学進学希望		
18	あなたは高校卒業後、大学や短期大学、専門学校などに進学を希望しますか。それとも就職を希望しますか。	55.6%	3.2%	12.2%	0.3%	16.1%	0.1%	0.1%	0.3%	11.3%		0.8%	100.0%	55.6%	53.5%	51.9%	50.6%	50.4%	5.1%
	選択肢	岐阜県	愛知県	三重県	中部地方	東京都	関東地方	大阪府	関西地方	その他	まだわからない	未記入・未回答	岐阜県	岐阜県	岐阜県	岐阜県	岐阜県		
19	あなたは高校卒業後、どの地域の大学や短期大学、専門学校などに進学したいと考えていますか。あるいは、どの地域に就職したいと考えていますか。	26.4%	29.8%	0.4%	3.5%	3.5%	1.9%	1.5%	3.2%	1.7%	27.3%	0.8%	100.0%	26.4%	28.0%	28.8%	28.7%	27.8%	-1.5%
20	あなたは、40歳になったとき、どの地域で生活したいと考えていますか。	29.4%	8.9%	0.2%	2.1%	4.1%	2.4%	1.0%	1.9%	3.0%	46.2%	0.8%	100.0%	29.4%	30.9%	32.4%	33.4%	32.8%	-3.3%